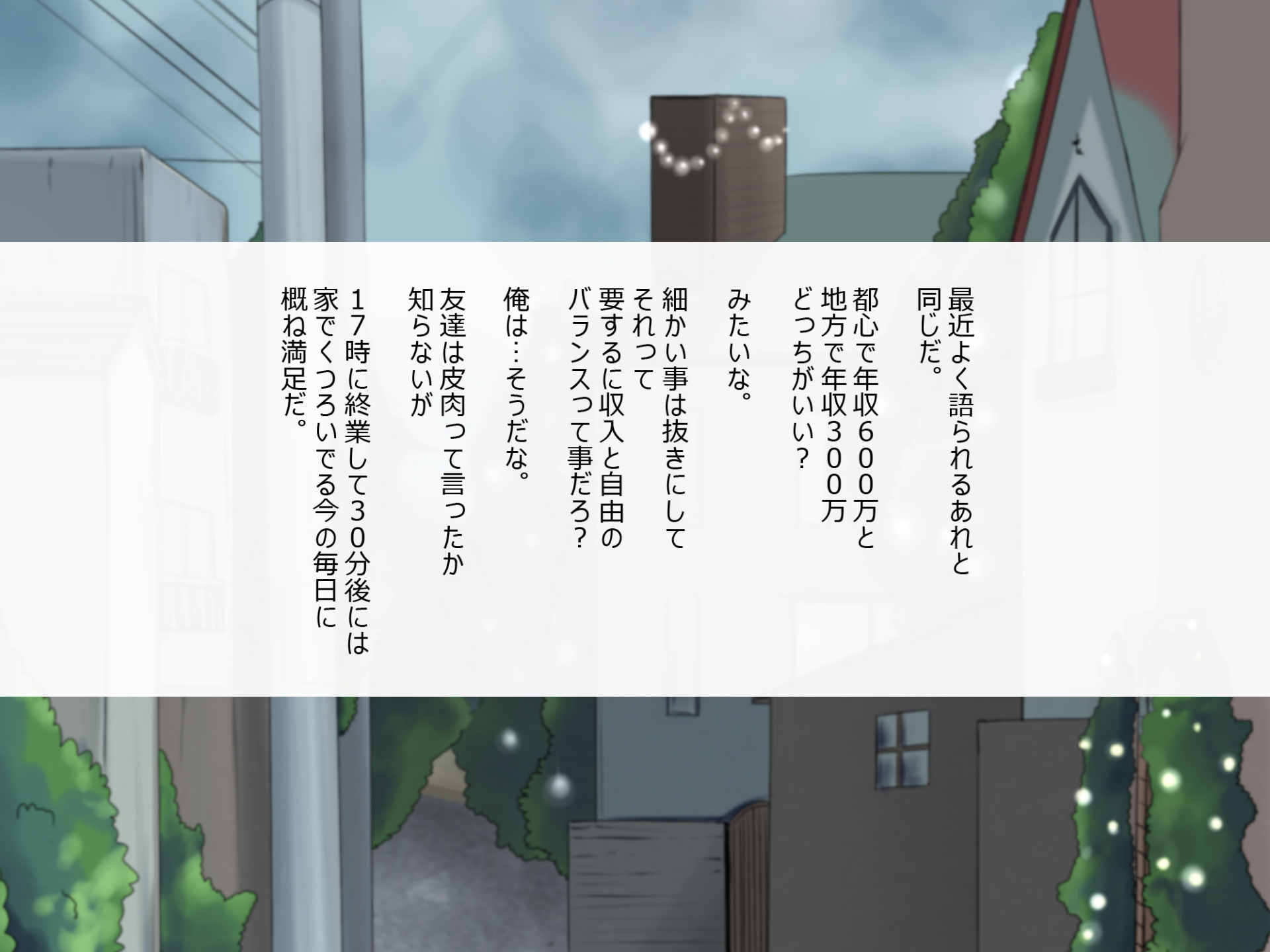


有名企業に勤める友達が  
おっしゃるには

残業80時間は当たり前。  
その残業代も貰えないのが  
珍しくないこのご時勢で

毎日定時に帰れるんなら  
少々給料が安かろうが  
お前がうらやましいと。



最近よく語られるあれと同じだ。

都心で年収600万と  
地方で年収300万  
どっちがいい？

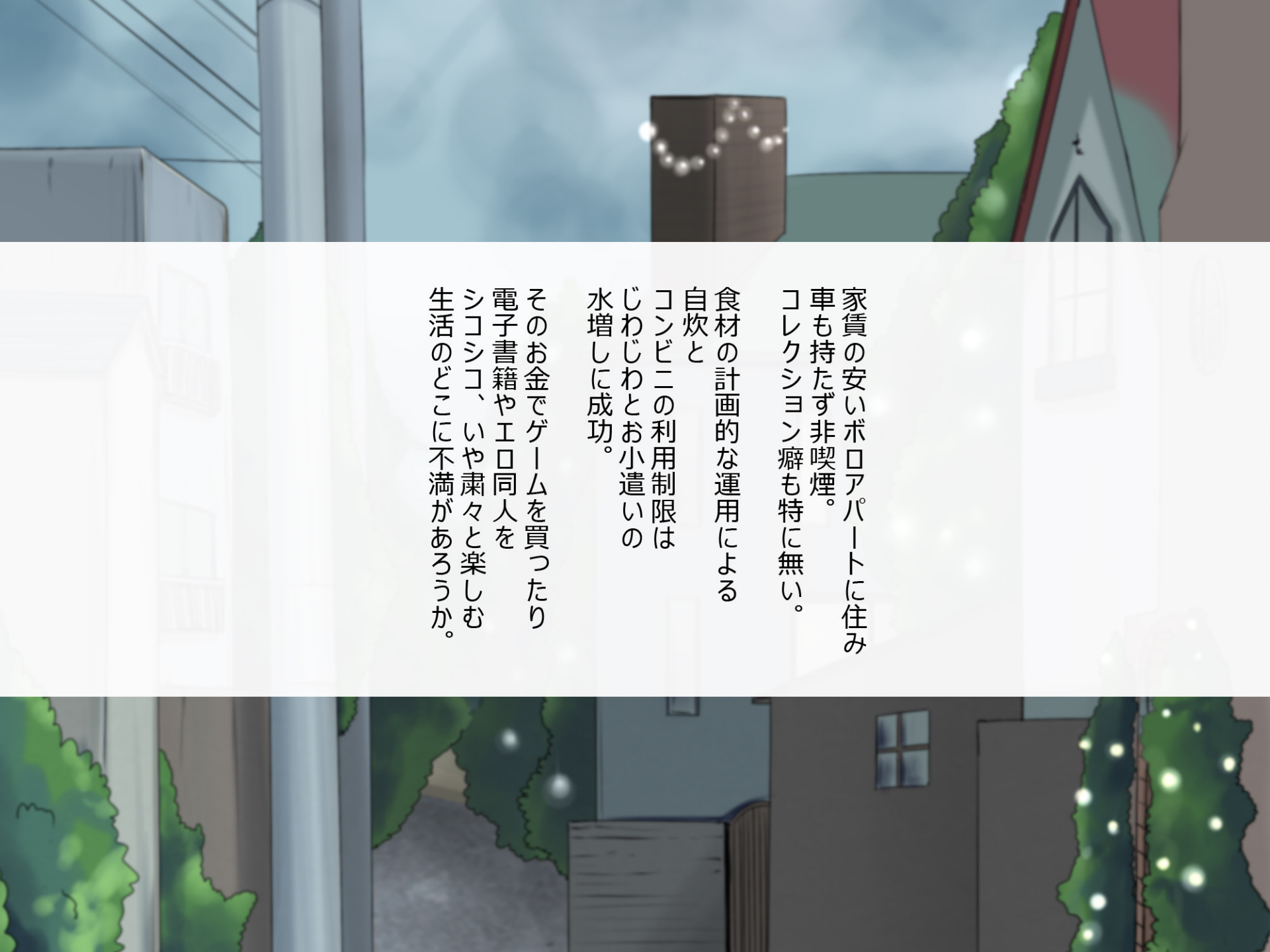
みたいな。

細かい事は抜きにして  
それって  
要するに収入と自由の  
バランスって事だろ？

俺は…そうだな。

友達は皮肉って言ったか  
知らないが

17時に終業して30分後には  
家でくつろいでる今の毎日に  
概ね満足だ。



家賃の安いボロアパートに住み  
車も持たず非喫煙。  
コレクション癖も特に無い。

食材の計画的な運用による  
自炊と  
コンビニの利用制限は  
じわじわとお小遣いの  
水増しに成功。

そのお金でゲームを買ったり  
電子書籍やエロ同人を  
シコシコ、いや肅々と楽しむ  
生活のどこに不満があるのか。



ぴゅうううううう

「…寒つ……」

いつも通る帰り路。  
家々に挟まれたこの道は  
風の勢いが増す。

軒並ぶ庭付きの高級住宅達は  
11月の中旬  
いま時分からすでに  
クリスマスの飾りつけで  
煌々としている。

「……この人達  
まじで七面鳥とか  
喰つてそうだな……」

今の階層ホジシヨンに満足もしているし  
結婚願望は特に無い。

「……………」

とは言え。  
とは言えだよ。

やっぱりマイホームと家庭つて  
持ってみたいよなあと思うのも  
正直なところ。





Xao Xao

?



.....  
居た

俺の住む安アパートの正面に  
鎮座する一際大きな家。  
その玄関の前に■■■が  
座り込んでいる。

ここの家の子。  
日頃よく見かける  
女の子だ。

挨拶すらしした事がないけどね。

(何やってんだ？)

…鍵を無くしたとかかね？

うわ…素肌出てるし…

そりゃ寒いだろうよ。)

まがりなりにも5年近く  
ご近所さんでありながら  
挨拶を交わした事すらないのは  
何故かと言うと

『■■■が苦手』だから。  
体が自然と避けるんだ。





さて：どうすつかなあ  
一応事情だけ聞くかあ：：？

虐待とか：：？  
ねえとは思うけども：：

でもなあ：善意で声かけて  
怪訝な顔されたら  
すげー気分悪くなるしなあ：

こつちには気づいて  
ねえな：  
もうちよい近づいてみるか：



うわ…  
だめだコレ…

……

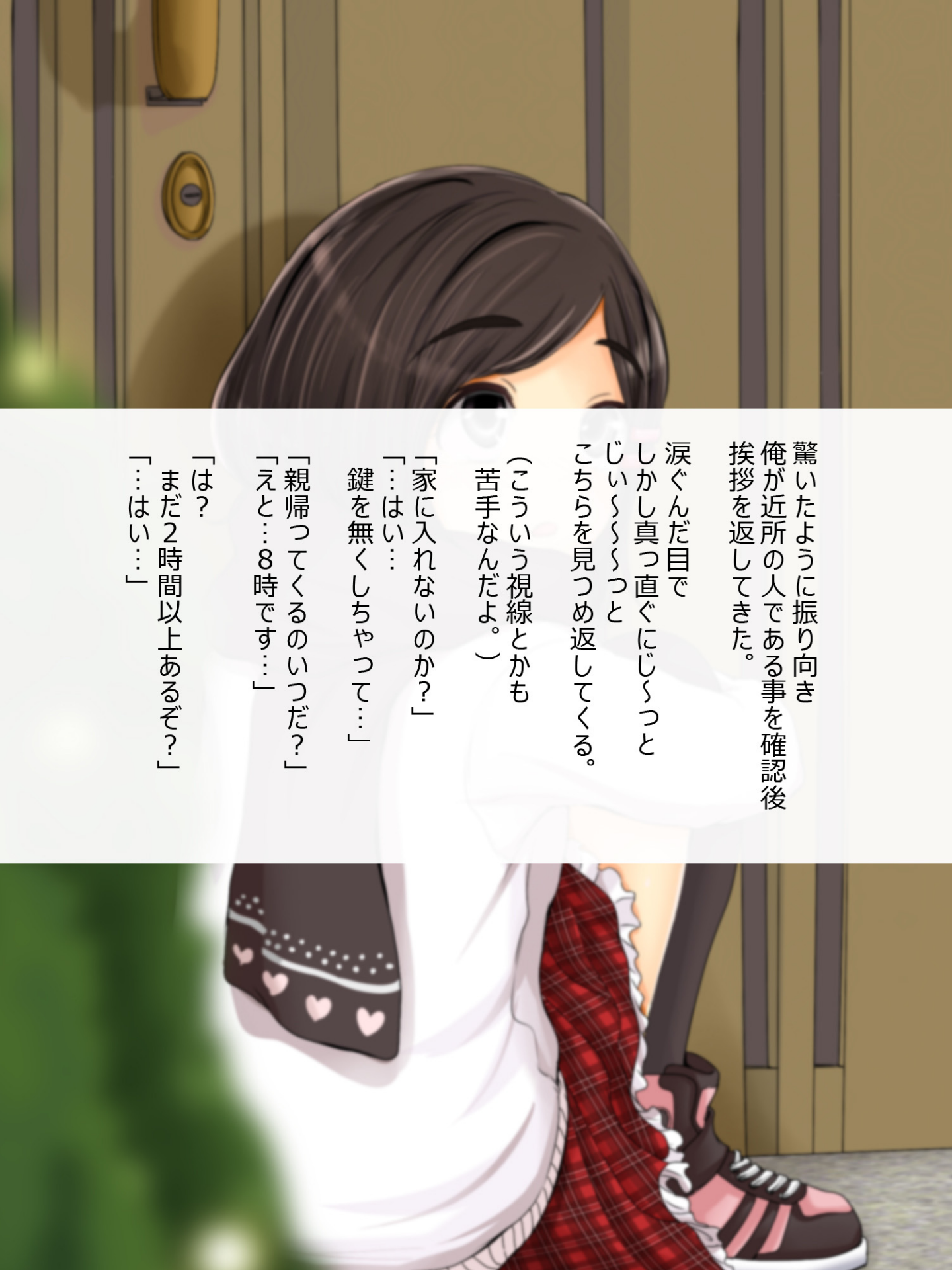


…なあ…  
お前どうしたの？



こんにちがは……

……あ……



驚いたように振り向き  
俺が近所の人である事を確認後  
挨拶を返してきた。

涙ぐんだ目で

しかし真つ直ぐにじゅつと  
じいじゅつと

こちらを見つめ返してくる。

(こういう視線とかも  
苦手なんだよ。)

「家に入れないのか？」

「…はい…」

鍵を無くしちゃって…」


「親帰つてくるのいつだ？」

「えと…8時です…」

「は？」

「まだ2時間以上あるぞ？」

「…はい…」



「ここにこうやってるしか  
仕様が無いのか？」

「…そうなんです…」

(おいおいコレ患わないか？  
雪チラついてんぞ？)

「親に連絡した？  
なんつつてる？」


「…あ、おかまい…なく…  
いいから。」

「…どこか近くのコンビニか  
何かに入っていないさいと…」

「駅前までいかなきゃ  
なんもねえよな？この辺。」

「…はい…」





「それに：  
それだと家に戻る時が  
コワいんです：  
暗い所を1人で歩いてると  
変な人が寄ってきて：」

「あー：俺もソレっぽい  
この辺でよく見かけるわ。」

最近の変質者は■■■■相手に  
見境なしか。  
□リコンとかないわあ〜：

「……………」


しかし■■いながらに  
分別のあるヤツだな。

俺と話してる時は意図して  
寒がるの止めている。  
さつきまであんなにガチガチ  
震えてたのに。

なんていうか：立派なヤツだ。








「…よしわかった  
じゃあ俺の部屋来い。  
見えてる、そこだ。  
あれの201号。」

「え……………  
でもご迷惑が…掛かります…」

「別に部屋でやる事も無いし  
8時までだろ？  
迷惑じゃないよ。」

「あ、いえ…  
その……………」



…誘拐に…  
なつちやい…  
ます…よ？


？

ああ！  
未成年者なんとかって  
ヤツか  
お前すげーな  
そんな事知ってんのか

.....

キョトン...





お前の同意があっても  
ダメなんだっけ

……はい……

んー…  
じゃあ親に電話してくれ

はい………

んー…  
じゃあ親に電話してくれ

はい………え？




親に電話するんですか？



えー

うん





いいからいいから  
お前の親が了解してれば  
大丈夫なんだろう？  
だから話すよ

.....

.....

驚きと尊敬と戸惑いと不安を  
緋い交ぜにしたような表情で  
スマホを取り出し発信している。

(別に状況を整理して提案を  
保護者に伝えるだけだ。  
なんも問題ねーだろ。)

てか、ア、アイホン6S  
じゃねーか。  
どうなってるんだ  
最近の学生は。)

「あ、もしもし、お母さん？  
何度もごめんね。  
あのね…お向かいの  
お兄さんが…  
お話がある…と…」

指でちよいちよいとして  
代わるよう促す。



「もしもし。  
向かいのアパートに住んでる  
狭間と申しますけども。  
ええ、そうですそうです  
燃え広がり荘の。  
で、：あ。」

(お前名前なんてーの?)

受話口を手で塞ぎ小声で聞く。

「愛莉あいりです。」

「愛莉ちゃんが鍵を  
無くしたとかで：  
ええ：はい：」

うわあ  
声がめつちや警戒してる(笑)  
まあそりやそーだろうけど。



「で、見かねましてね。

雪もチラついてますし  
風邪をひいてもいけない。

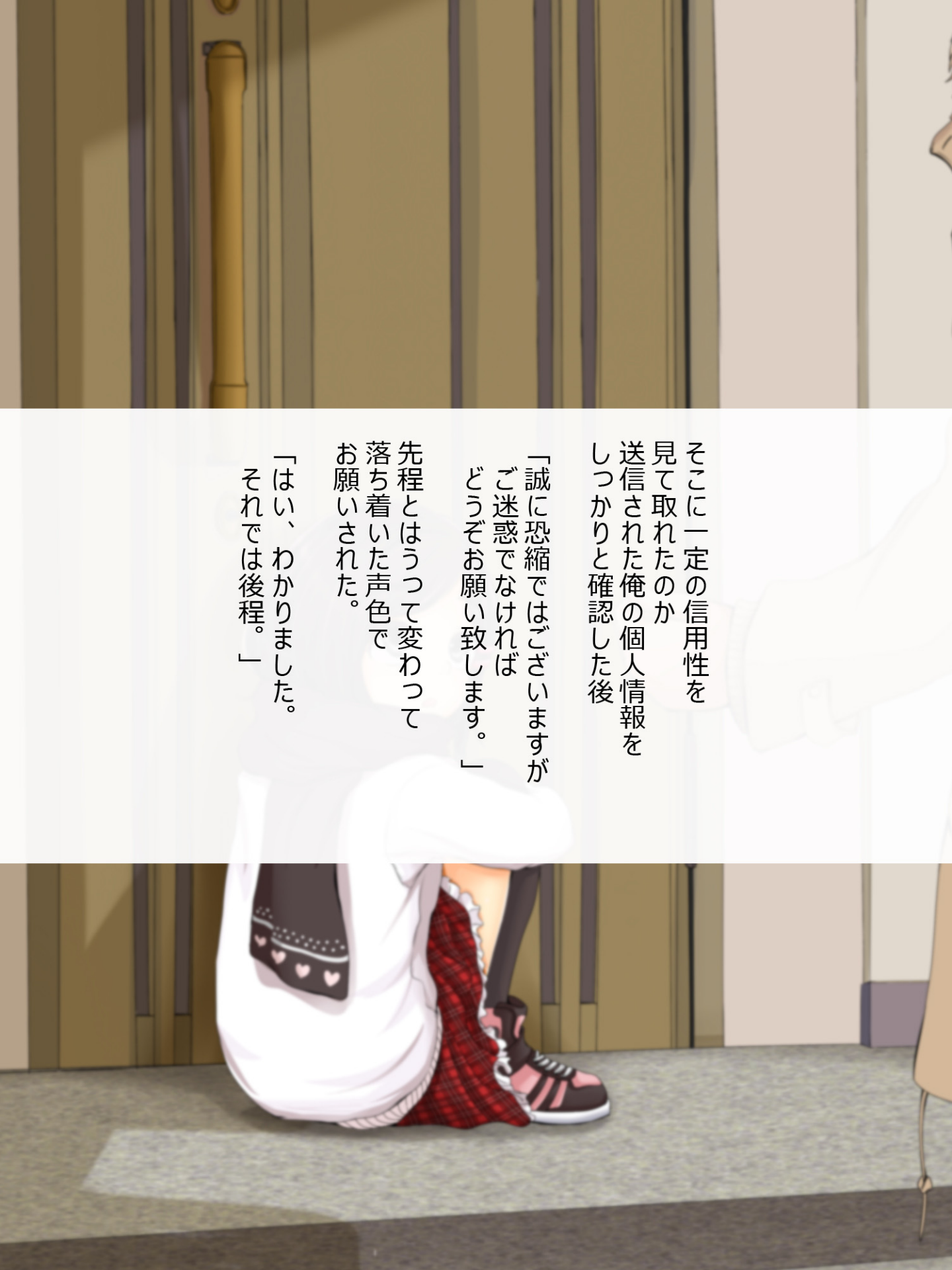
お母さんがお帰りになるまで  
うちに入れてあげようかと思  
いご連絡さしあげた次第です。

ご不安でしょうから  
今この場で**私の顔と免許証**を  
愛莉ちゃんの携帯で  
撮って送ります。

後はどうするか  
お二人で決めてください。」

当然他意も裏も無い俺としては  
自然と突き放した言い方になる。





そこに一定の信用性を見て取れたのか  
送信された俺の個人情報  
しつかりと確認した後

「誠に恐縮ではございますが  
ご迷惑でなければ  
どうぞお願い致します。」

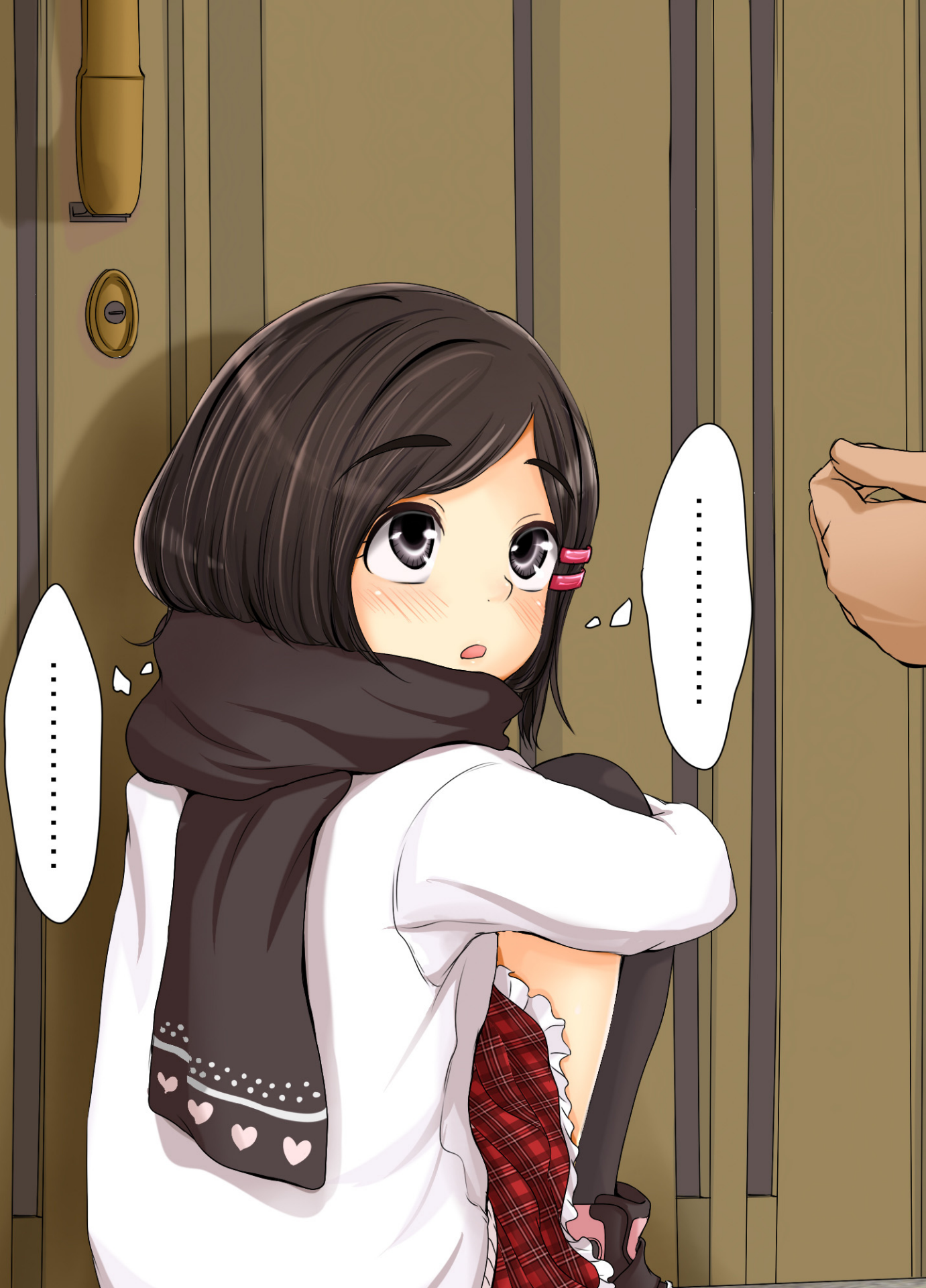
先程とはうって変わって  
落ち着いた声色で  
お願いされた。

「はい、わかりました。  
それでは後程。」

いつまで座ってんだよ  
ほら、いくぞ

…は、はい…





Lewdly Lovely a

Lollipop るせーらぶあ

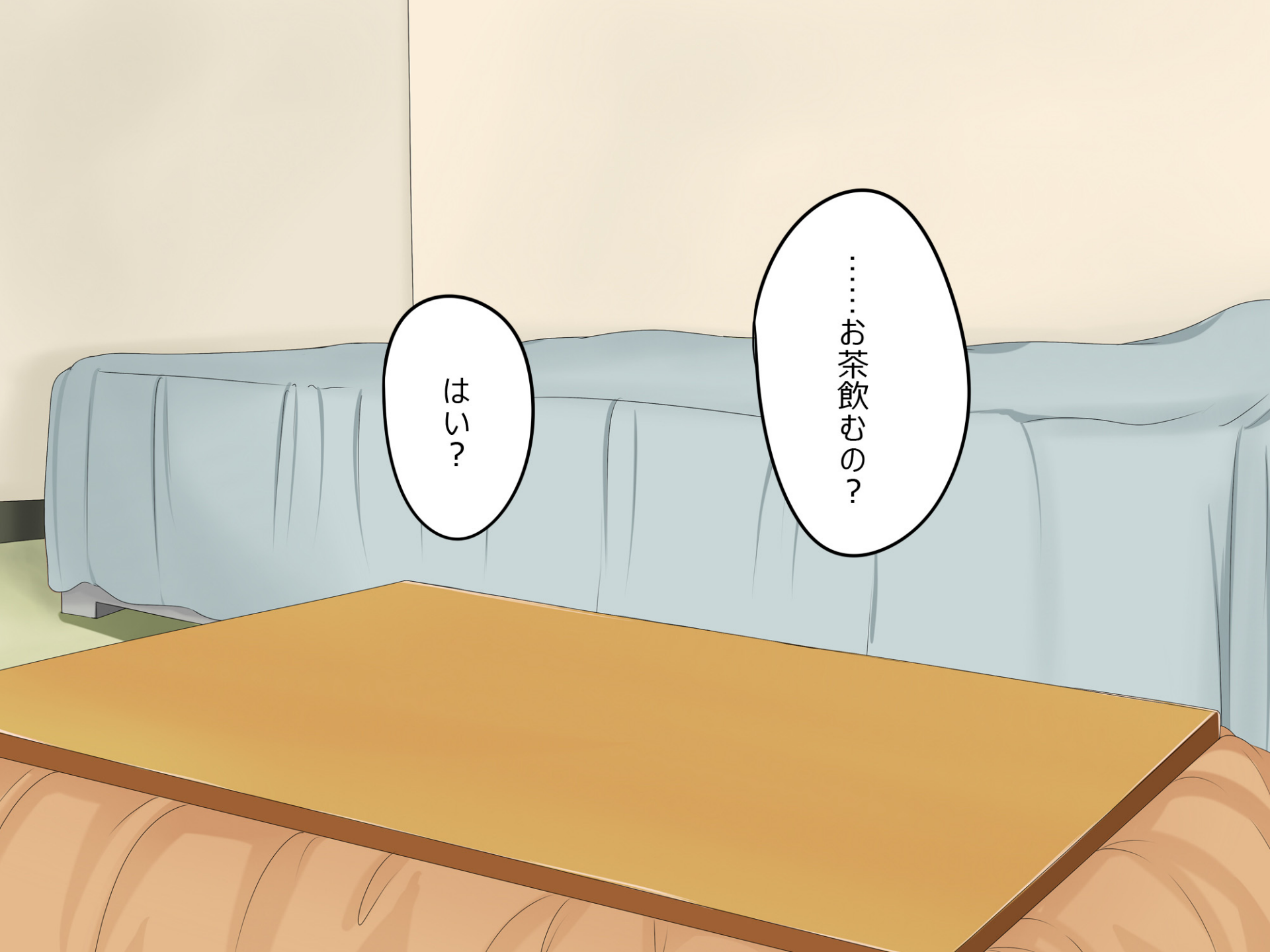
るいぽっぴ!



お邪魔します

はいどうぞ  
コタツ入ってまってるから  
すぐにお茶淹れるから

あ…  
ありがとうございます



はい？

.....お茶飲むの？

「いや、お前くらいの子って  
お茶なんか飲むの？」  
「飲みます。」

「ホットミルクとかの方が  
よかつたり？」

「ココアもあるけど。」

「あ、いえ、お茶で…  
お茶飲みたいです。」

「緑茶とはと麦茶と玄米茶が  
あるけどどれがいい？」  
「……………」

じじくせーとか思い中だろうか。  
まあどう思われようが構わんが。

「……………」  
…それは迷いますね。」

お…人馴れしてんな…。

「3つ入れてやろうか？」

「あはは♪

そんなに頂いたら  
おトイレまでお借りすることに  
なつちやいますから  
…じゃあ玄米茶をください。」

「ん。」

ぬるいお湯だと香りが  
立たないので  
グラグラの熱湯で濃いめに  
淹れてから  
すこし水で埋めてあげる。

「はいどうぞ。」  
「有難うございます  
頂きます。」

こちらに真っ直ぐ顔を向けて  
軽く会釈をする。

こいつ俺と顔合わせてる時は  
一度も周りを見てねえ。

非常に礼儀正しい。

そういえば先日友達が  
連れて来た彼女。

初対面、紹介し合う前から  
『へエ〜〜〜(微笑)』って  
部屋中をまじまじと  
見渡しなすった。

新築の家に呼ばれたんじゃ  
ねーんだから。

こんなボロアパートじゃ  
揶揄にしかならんだろ。

ほぼ沸点のお茶出してやったわ。

そんなのに比べて。

「ホ…ホ…」

美味しいです♪」

少し目を見開き軽く笑顔。  
本当においしそう。

こいつに満たない  
よそんな家マナーの大人なんて  
わんさか居るぞ。

小せえ事だがちやんと  
してるよなあ…  
礼儀作法とか徹底的に  
叩き込まれてんのかな。

スゲーなあの家。

ハア~~~~:  
いのち拾いしました

はは 大げさだろ

Lewdly Lovers  
a  
Lollipop  
Love  
heart



いえ本当にどうしようかと  
思っていました  
すっくすっくごく寒かったんです

ああ  
唇が真っ青になってたぞ

Lewdly Lovery  
a  
Lollipop  
Love  
heart



危ねえから冬には  
もう鍵を無くすなよ？

はい





ん？  
そりやなんでもねえ  
事だからだよ

でもなんでもごいまで  
して下さるんですか？

.....

凍えてる近所の [redacted] を  
2時間暖取らせるのに  
ここまでなにもねーって

.....

だろ？

Lewdly Lovers  
a  
Lollipop  
Love  
heart



…ありがとうございます  
ございます

ま、も、  
ほんと気にすんなって

はい

Lewdly Lovely  
a  
Lollipop  
Love  
heart









「……………」  
「……………」

男に囲まれて育ったからか  
礼儀だのにはうるさいくせに

女に対する基本的な  
何かしらが  
欠如している自覚がある。

その上こんだけ年齢が  
離れてるからなあ。  
輪をかけてなに話していいか  
わからん。

「……………」  
「……………」

こいつはこいつで  
困ってんな。

いくらマナーとか  
叩き込まれてたとしても  
とは言え ■ 学生だ。

社会人と話し合わせるとか  
無理だろなそりゃ。

んじゃ、俺ががんばるか…

「…学校でさ」

「はい。」

「何が流行ってんの？」

「そうですねー…」

「マンガとかアニメとかだと。」

「マンガだとゴールデンカムリとかですね。」

「え、あれ時々グロいだろ…」

■学生でもあんなの読むんだ。」

「私は読みます。ダメな子は全然ダメみたいですけど。」

「親とかなんも言わねーの？」

コレ■が読むには

早くない？みたいに。」

「はい。」

「うちは言われないです。」

「ほー意外だ。」

さつき話した感じだと

そーゆーの厳しい方かと

思った。」

「基本的にはやる事を

やっていけば

好きにさせてくれます。」



「そっか。」

自由にマンガ読めて  
よかったな。」

「あの…その…お兄さんは  
どんなマンガ読むんですか？」

「そうだなあ、、、

あ、俺の名前な狭間だ。

はざまひろし  
**狭間博。**

お前苗字アイダだっけ。

あいだあいり  
**藍田愛莉**ちゃんか。」

「はい。」

いくら ■ 相手でも

お前お前つてのもなんだよな。  
ちゃんづけとか苦手だけど。

「俺も金カム読むぜ。

おもしろーよな。」

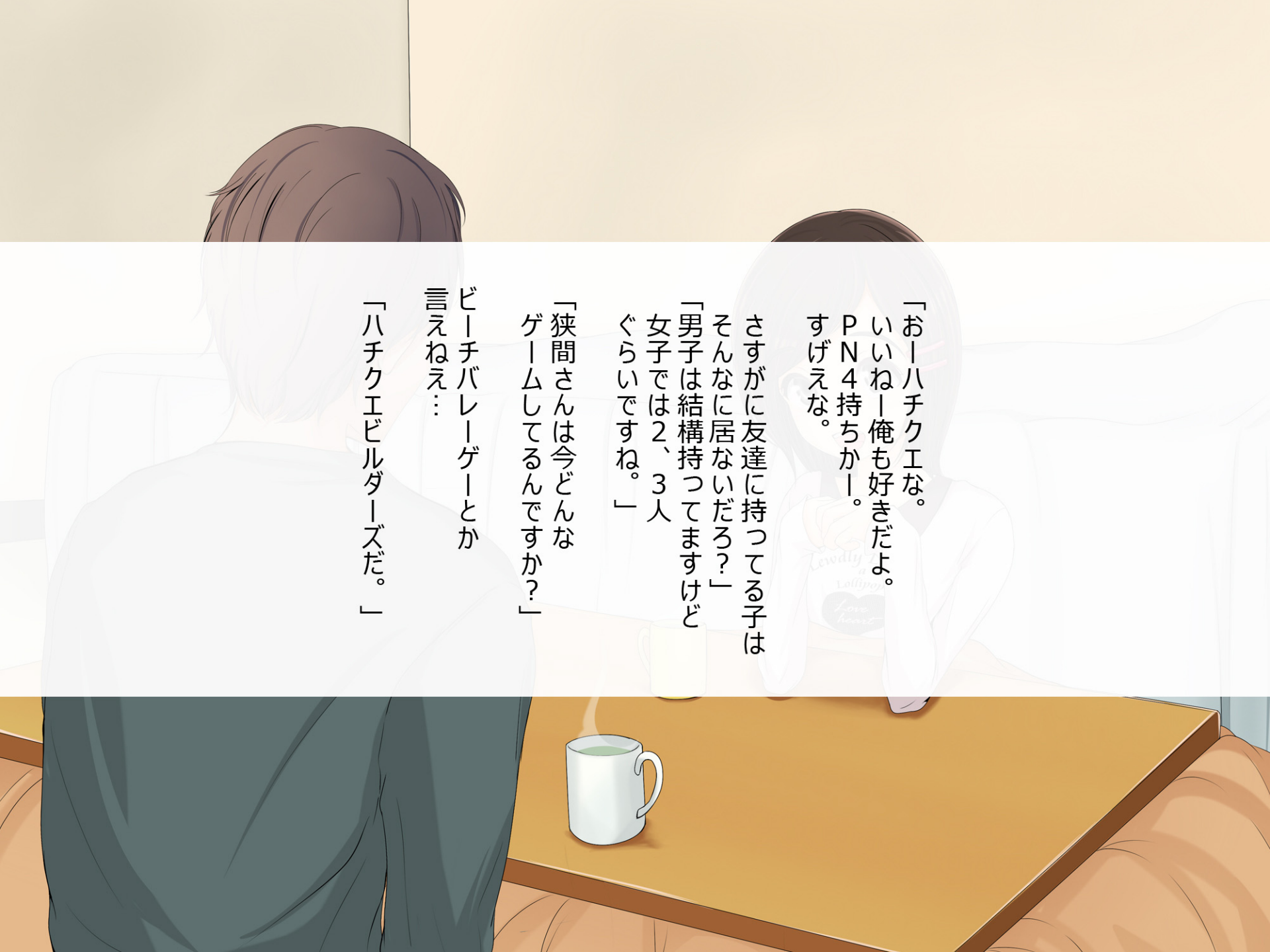
「はい！  
ドキドキします！」

「藍田ちゃんはゲームとか  
しねえの？」

「(藍田ちゃんて…)

PN4もってます。

今ハチミックエスト  
してます。」



「おーハチクエな。  
いいねー俺も好きだよ。  
PN4持ちかー。  
すげえな。」

さすがに友達に持つてる子は  
そんなに居ないだろ？」  
「男子は結構持つてますけど  
女子では2、3人  
ぐらいですね。」

「狭間さんは今どんな  
ゲームしてるんですか？」

ビーチバレーゲーとか  
言えねえ：

「ハチクエビルダーズだ。」

あ、いいなあ！  
私もやりたいなって  
思ってます

お、そうか  
今ちよつとやってみるか？



あ、えと  
今は、いいです  
ありがとうございます

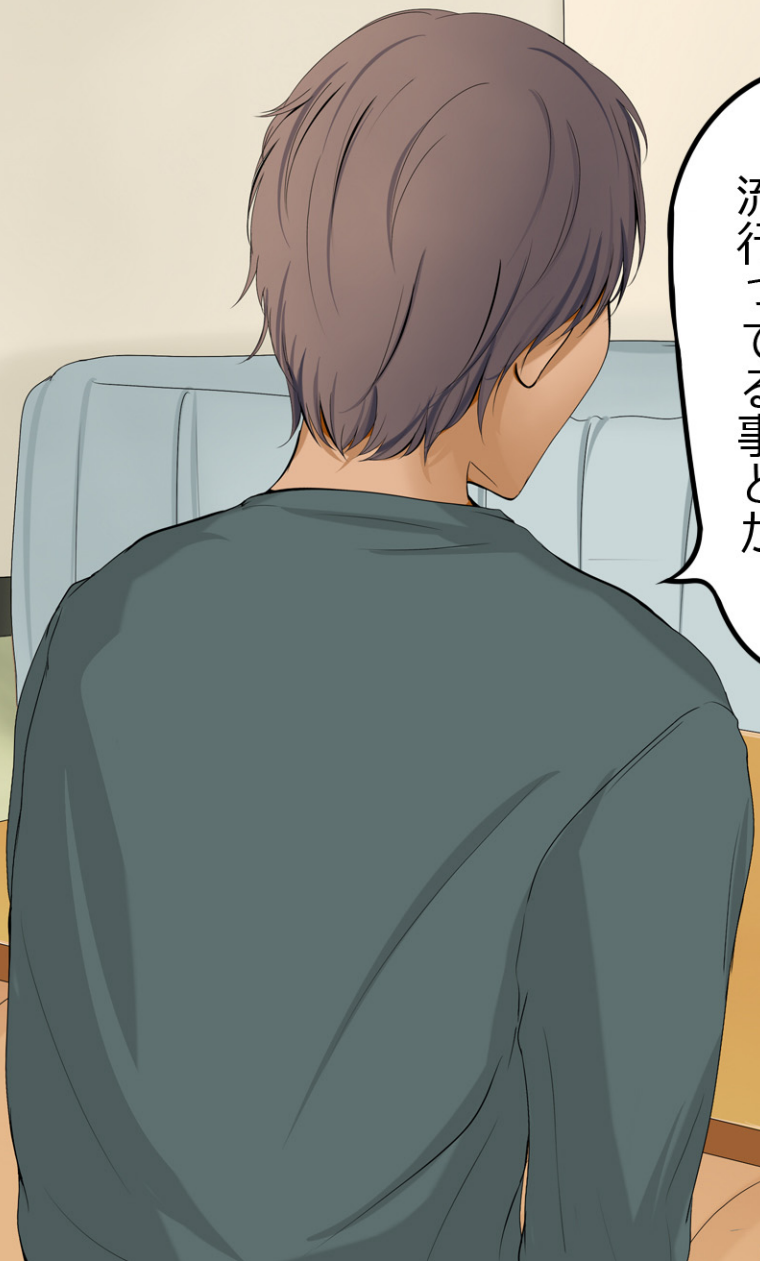
そーか  
遠慮する事ねーのに

Lewdly Lovers  
a  
Lollipop  
Love  
heart



もっとお話しして仲良くなりたい…

じゃあ他は？  
なんかクラスで  
流行ってる事とか



そうですね…  
愛するミラクルビスケッツの  
踊りをやっています  
クラス全員で

何かの企画らしくて  
ユーホースで  
公式で流れるみたいです

うん



あ、でも  
うちだけじゃなくて  
いろんな学校回ってる  
みたいですよ

じゃなくて踊れんの？

やれんのかオイ





ふーん

はい  
踊れます

Candy D  
a  
Lollipop  
Love heart





俺も踊れんだけど

なんです？

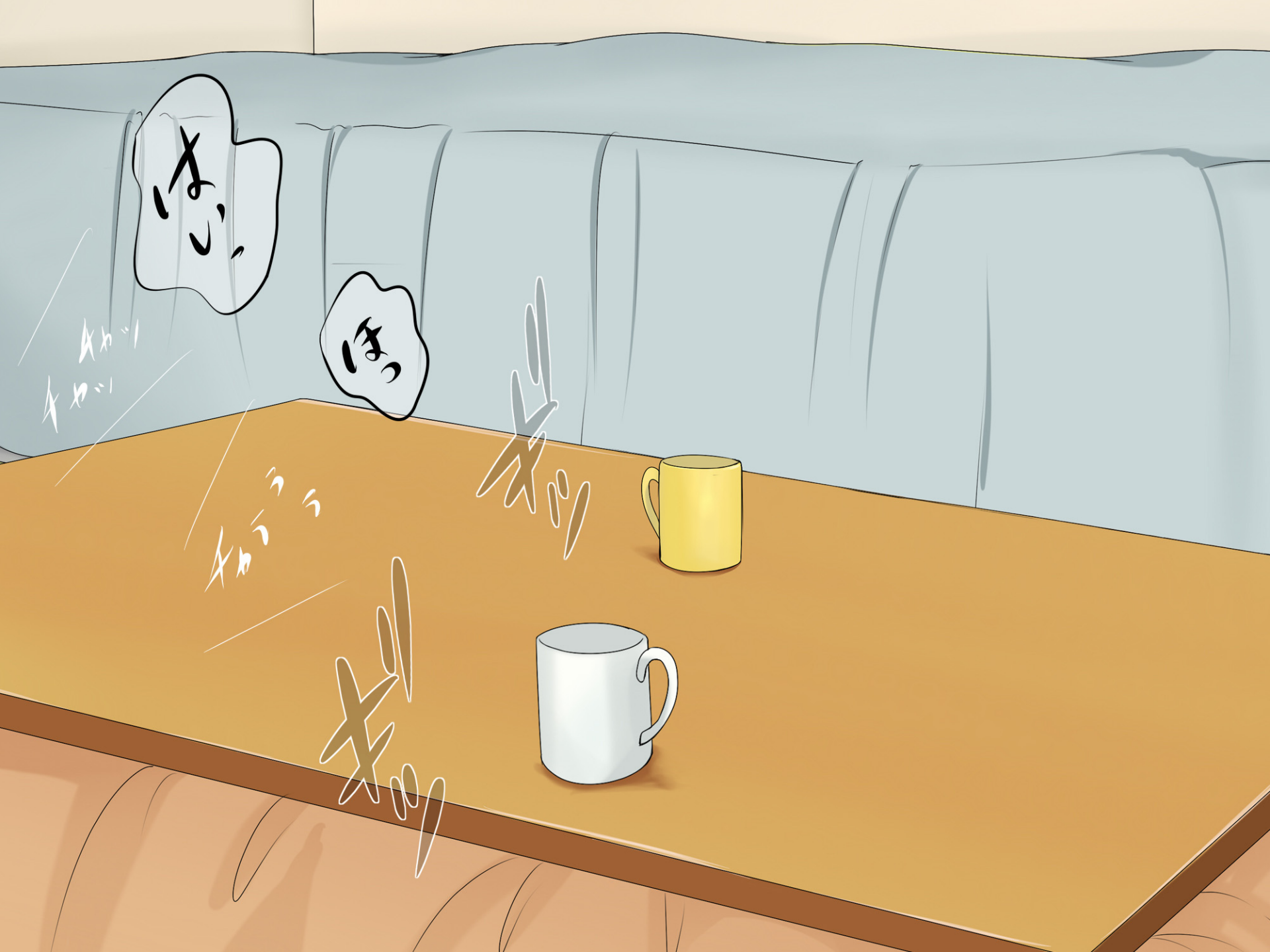
Candy D  
a  
Lollipop  
Love heart



うん









ああーい

おねんね

みいらくる

ビスケエツツ

Lewdfly Lovers  
a  
Lollipop

Love  
Heart

Our taste of honey

藍田さんよお！  
キレツキレじゃねーかつ！

狭間さんも  
やるじゃんっ！

おおおっ！

Lewdfly Lovely  
a  
Loffing  
Love  
Heart  
Our world of honey





セイツ

セイツ

セイツ

あははははっ  
セイツてっ  
w

ハイハイハイっ





下も隣も住人が居ないのを  
良いことに  
本意気で踊りくれる事数十分。

二人の足元に冷たい空気が  
すうつと通った。

振り返るとドアの開いた玄関に  
この子の母親が立っていた。


表情には驚きとも安堵ともとれる  
心持ちが見える。

「あ、お母さん。」

「愛莉……」

「……………」





こういう時いきなり子供を  
叱りつける所から始まる  
親が居る。


(ウチの親とかそうだ。)

なんで鍵無くしたのっ！  
とかさ。

子供に全責任を押し付けければ  
話が楽だから、かな？

でもこの人はソレやんないな。  
さすがこの子の母親。

この子供にしてこの親ありだ。



「すみません  
ノックはしたのですが…。  
初めまして、というの  
もアレですが、初めまして。  
この子の母親です。」

会話はねえけど  
よく道ですれ違うからな。

「初めまして、狭間と  
申します。」

「この度は娘が大変  
お世話になり、お、」  
「あーお母さん。  
いいんですいいんです。  
なあ、あくんにも負担に  
なってますから。」

「…そうですか。そう言つて  
頂けますと…」

「それに、ご覧の通り  
すごく楽しかったですし。  
な、愛莉ちゃん。」

「はい♪」

「あはははははは♪」

「あはははははは♪」

「…………… (はあ….)」

笑っている二人の横で  
お母さんが大きな安堵の  
ため息をついたのがわかった。

「じゃあな愛莉ちゃん。

しつかりご飯食べよう」

「はい♪狭間さんも

夕飯をとってください。」

「それでは失礼いたします。

また後日

お礼に伺いますので。」

「いえ、お気遣いなく。」

「それじゃ

ありがとうございます♪」

「おう、ばいばい。」

親子そろって会釈をして

静かに、静か〜にドアを

閉めて去っていった。

(やっぱ金持ちは所作からして  
違うな。)

「さて〜：飯食うか。

今日は四川風マーボ!!」

しかし…

変わり映えしない毎日の  
このちよつとした善行が

選択肢1

このまま身の丈に合わせた  
人生をつましく送る。

選択肢2

がむしやらに働いて  
望める限りの上を目指す。

選択肢3



よもや**第3の選択**を  
俺にもたらす事になるとは…



1  
週  
間  
後

午  
後  
5  
時  
頃



キ、キタ、  
自然に、自然に  
凍えて：

フ  
フ  
フ

女  
々  
...

え？  
また鍵なくしたのか？

……はい……

さ、サムらい……

寒いなあつと……

ズ  
ズ  
ズ







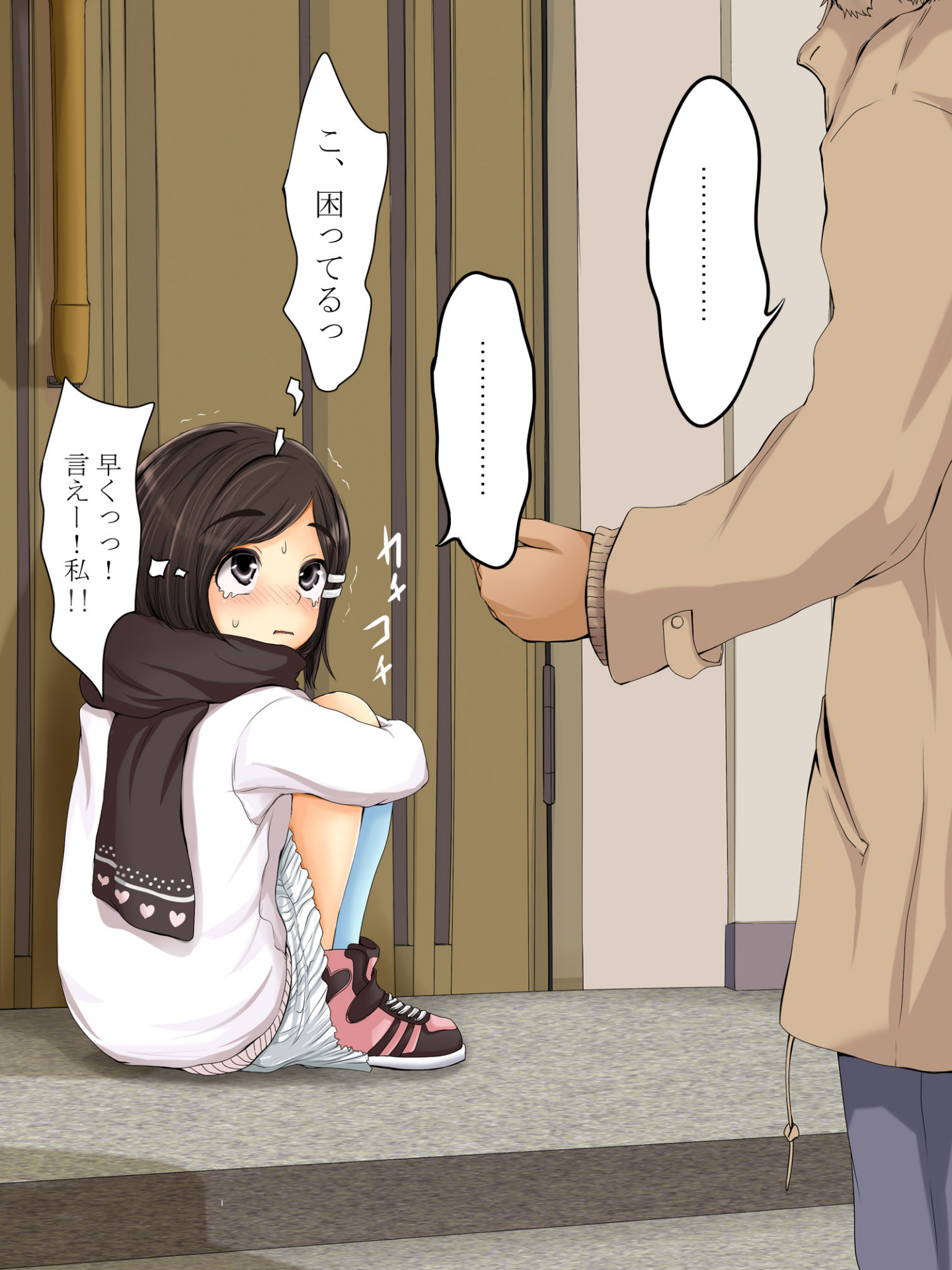
い、困ってるっ

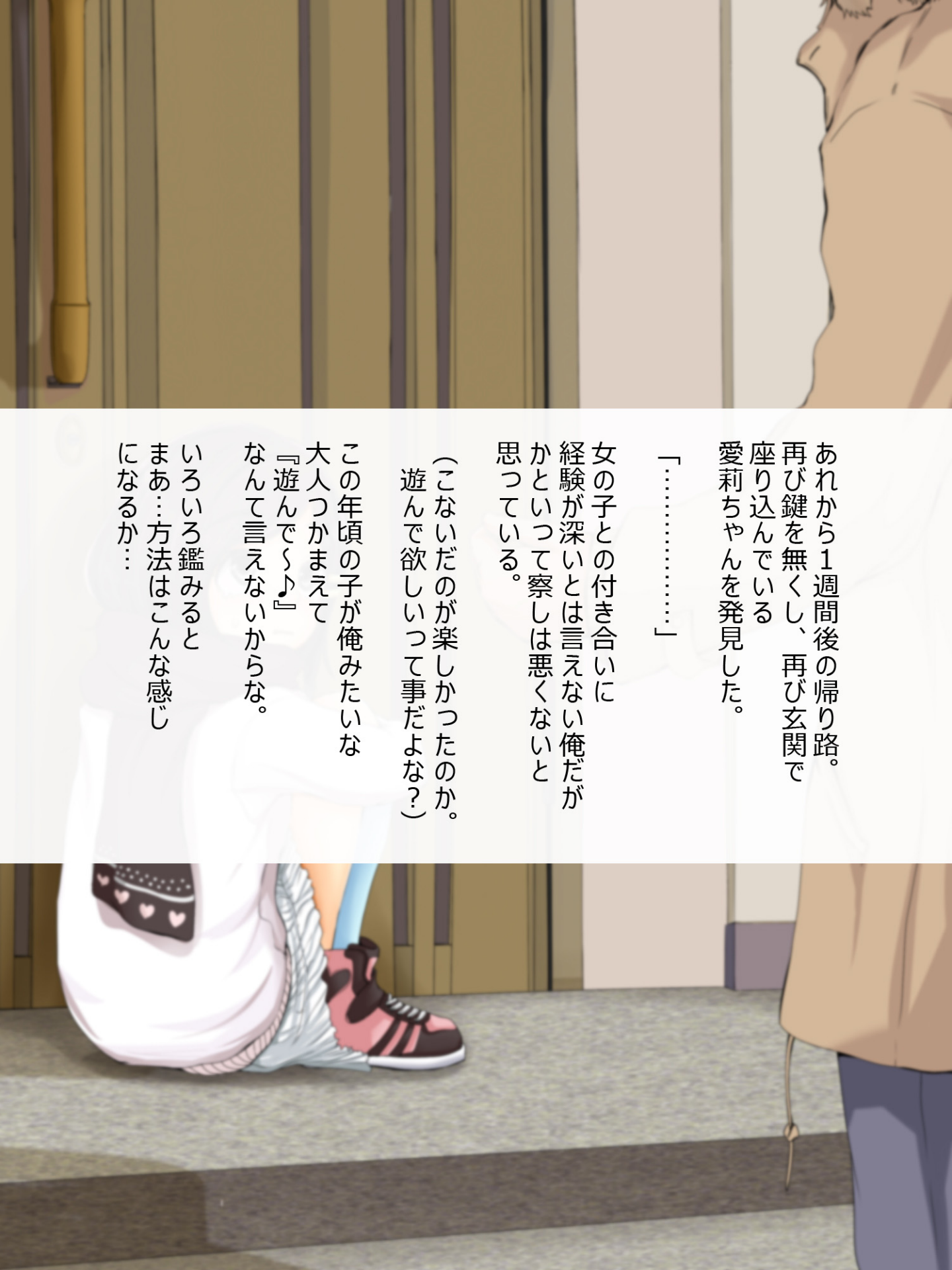
早くっつ！  
言えー！私！！

カキコキ

.....

.....





あれから1週間後の帰り路。  
再び鍵を無くし、再び玄関で  
座り込んでいる  
愛莉ちゃんを発見した。

「……………」

女の子との付き合いに  
経験が深いとは言えない俺だが  
かといつて察しは悪くないと  
思っている。

(こないだのが楽しかったのか。  
遊んで欲しいって事だよな?)

この年頃の子が俺みたいな  
大人つかまえて

『遊んで〜♪』

なんて言えないからな。

いろいろ鑑みると  
まあ…方法はこんな感じ  
になるか…



もし俺が

『俺と遊んでいいかどうか  
親に電話で確認する』

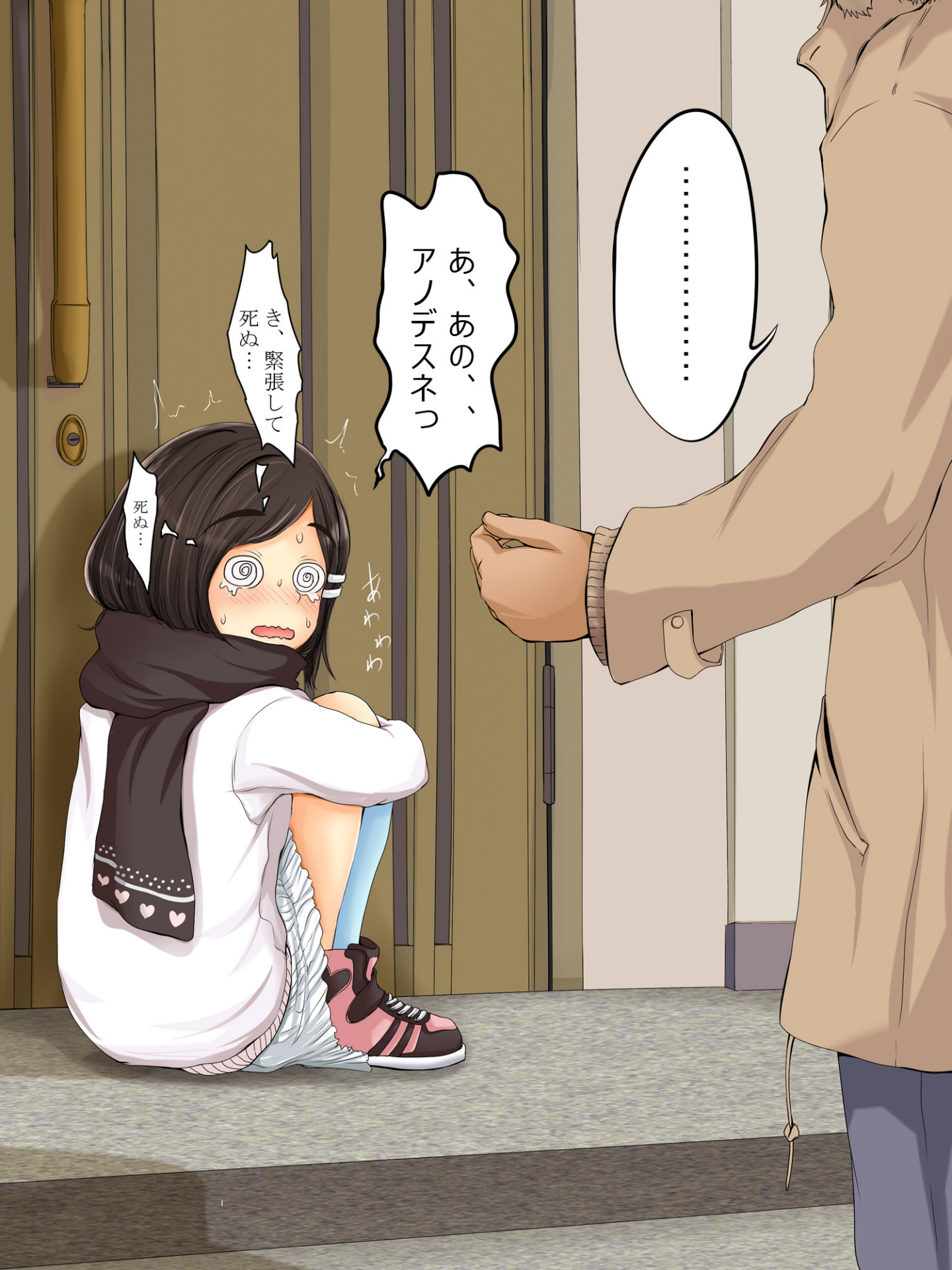
つて言ったら、断固拒否し

こいつはもう2度とこんな事は  
しなくなるだろうな。

だから今回はこれ…やったら  
誘拐になるわけだけど…

まあ先週の事もあるし  
もし状況がこじれても  
いきなり通報って流れには  
さすがにならんだろう。

■ ■ 心を大切にするなら  
何も聞かず  
こいつの気持ちも汲もう。



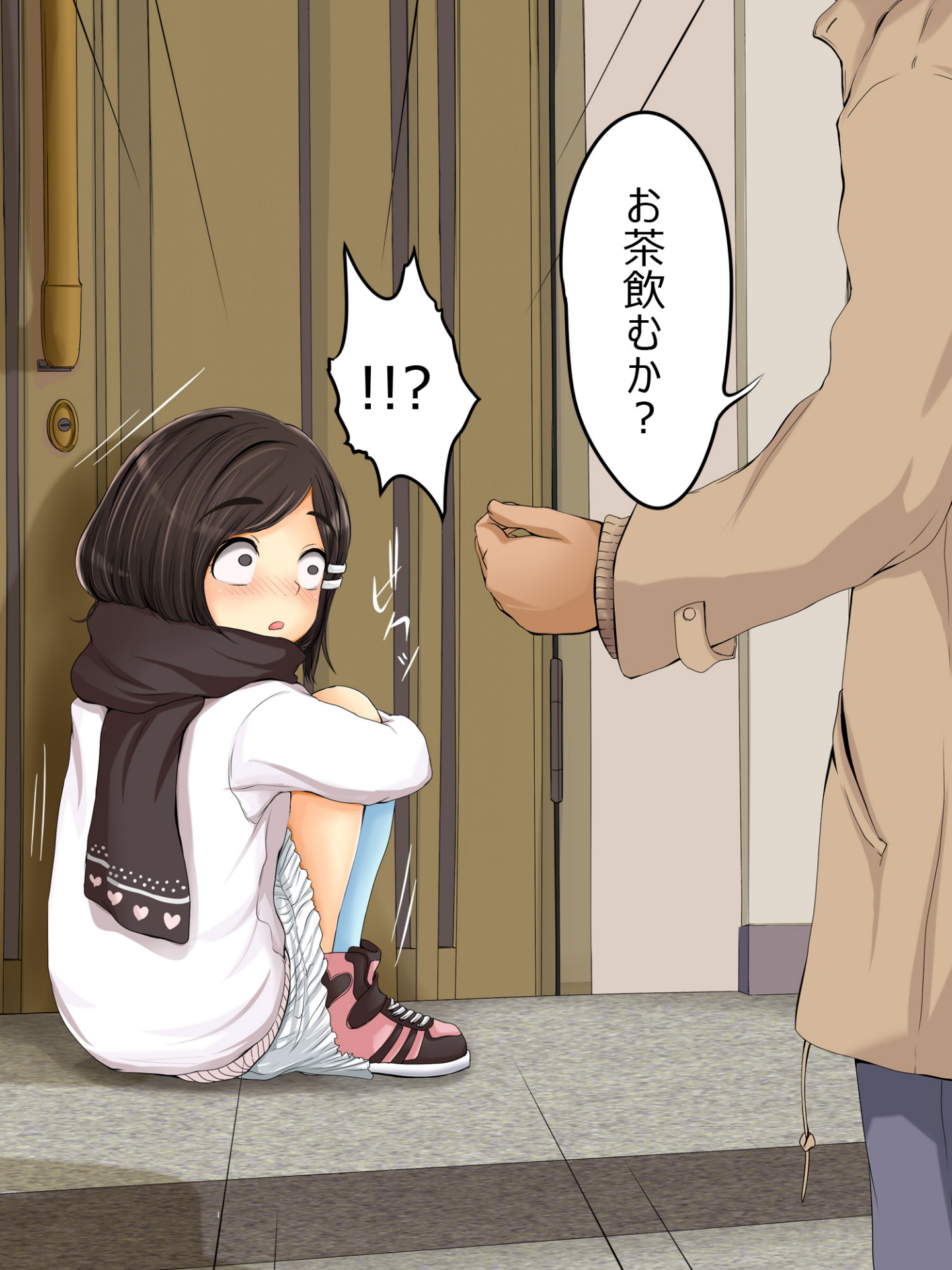
.....

あ、あの、  
アノデスネっ

き、緊張して  
死ぬ……

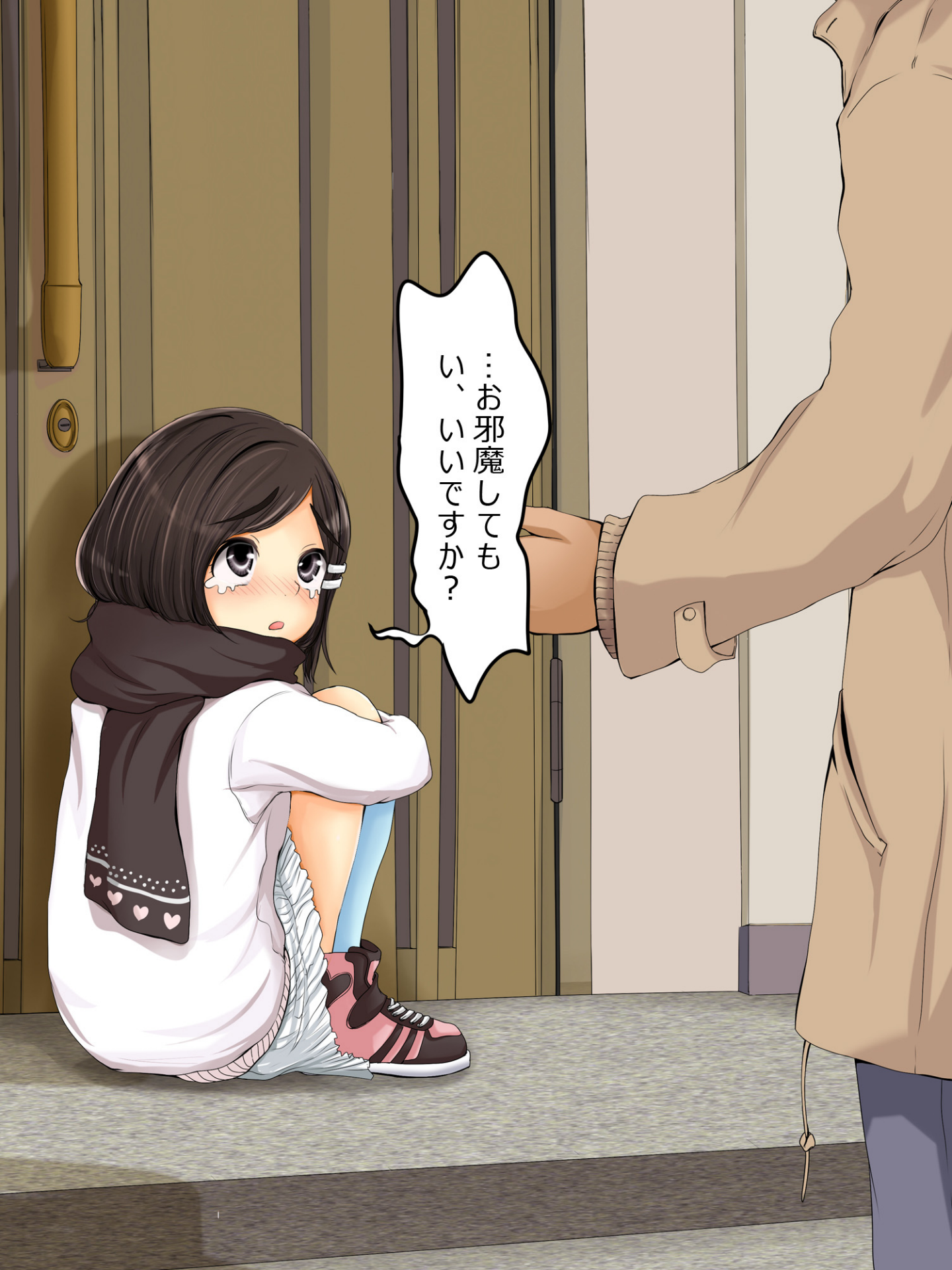
死ぬ……

ちぢぢ



お茶飲むか？

!!!?



…お邪魔しても  
い、いいですか？

ああ  
お前のお母さんに貰った  
お礼のお菓子  
いつしよにたべよーぜ

あー...

キキ...











「……………」  
「……………」

背筋をピンと伸ばし  
カリカリカリカリ。  
姿勢正しく宿題をしている。

今回は保護者のあずかり  
知らぬ事。

たぶん母親の帰宅時間  
見計らつて帰るつもり  
なんだろうと察し  
それとなく促した。

家帰つたらいつもやる事  
していいよと。

■学生とは言え  
帰宅後ぼろつとしてて良い  
家庭環境じゃないように  
思うしね。

だから帳尻の合わない  
痕跡に

『今まで何してたの?』

つて流れになつて  
下手すると俺が誘爆しかねない。



話によると父親は会社経営者で家に帰るのはいつも22時ごろ。

母親は一応専業だが毎週金曜日は遅くなるんだそう。

学校が遠方で周りに友達が居ない。

兄妹も居ないようなのでそりゃ日々、もの寂しいだろう。

遊んで欲しくなる気持ちもわかるわ。



基本的に1人を好む俺は  
本来なら近所のガキなんて  
煩わしいだけなんだが  
こいつは話しやすいからなあ。

行儀作法、会話のマナー  
何もかもちよつとした大人の  
それだ。

こんな■学生初めて会ったわ。

っーか

極力接触を避けているから  
知らないだけで

最近の■学生つてこの程度は  
ザラなのかもしれないけど。

とにかく。

こいつを部屋にあげても  
嫌な事は起きないし

週1回程度ならむしろ  
ウエルカムつてぐらいだ。

「……………」

「……………んんん……………」

「わかんねえの?」

「…はい…ちよつと」□□が…」



「どれ…あーはいはい…  
これね。」

「あ、わかります?」

「わがんね(訛り)」「

「あっは♪」

ツボったようにケタケタと  
笑っている。

「よし、俺も一緒に考える。  
二人で解くぞ。」

「はい、先生♪」

(俺好みの反応するよなあ  
いちいち。

…:…なんなんこいつ…:  
もし同年代の女だったら  
奥手の俺すら告白を  
熟慮するわ。)

今までの自分なら

■学生に対して恋愛感を  
投影しただけで恥ずべき  
という気持ちになっ  
ていたが…  
こいつに対しては  
それが無い。

『同年代なら良かったのに』

自然にそう思う。  
不思議だ。



「だから…で…」

「こうなるんじゃないかね?」

「あ、あ、あ…なるほど…  
で、こうね?」

「そそそ。」

「やった、わかった♪」

「ふふふっ♪」

「先生教えるの上手いですっ♪」

「お、又シおだて上手だのお。」

「そうなんですの♪あはは♪」

(好きだなあこの感じ…)

「では藍田氏」

「次の問題が解けたら」

「**珍しい飴**ちゃんを進ぜよう。」

「まことか?」

「うぬ。」

「では、ごき。」

才色兼備つてのはこいつの事を

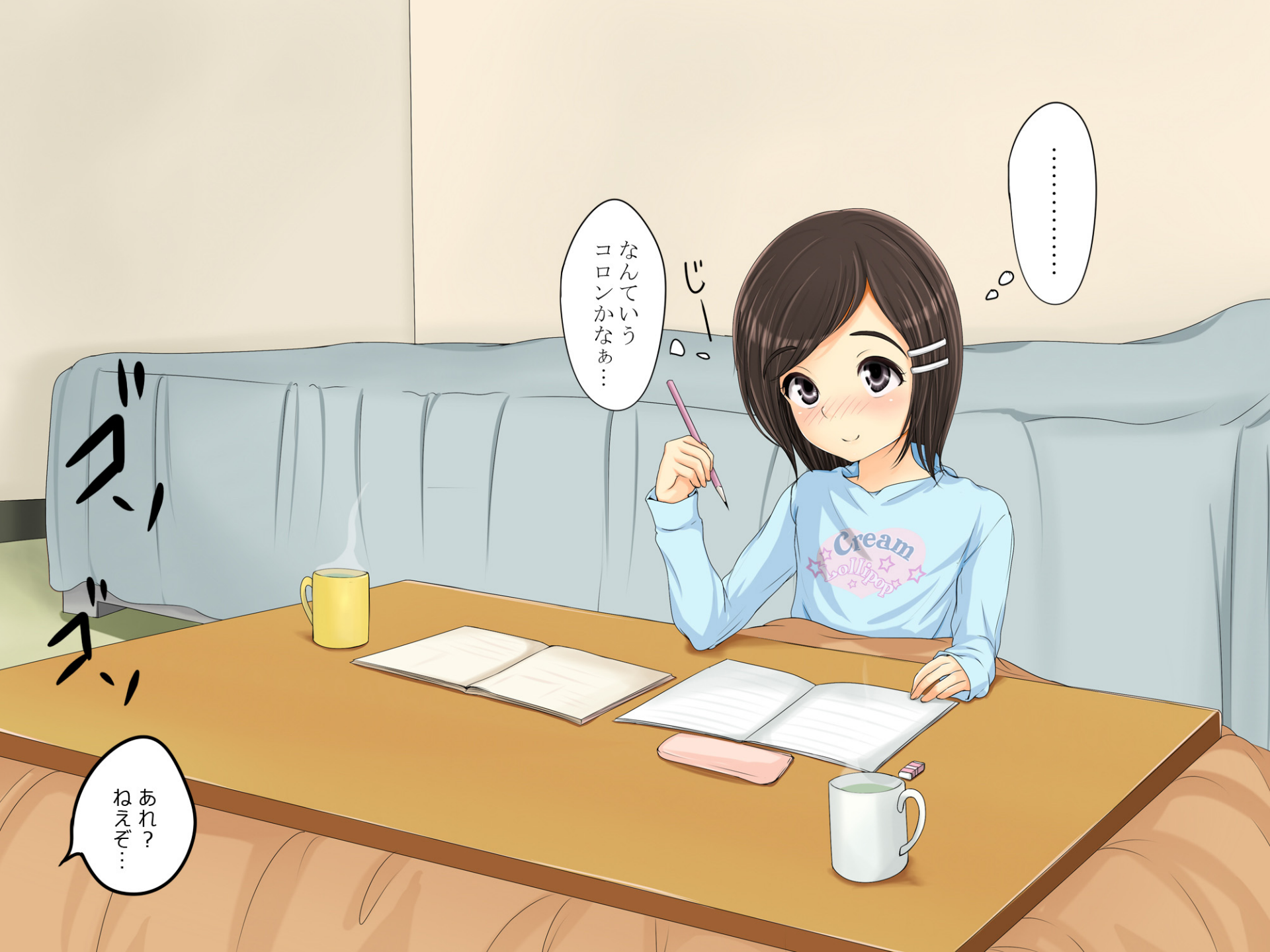
言うんだろうなあ。

こいつの人生には幸しか

ありえねえ。







なんていう  
コロンかなあ...

じー

.....

ガッ  
ガッ

あれ？  
ねえぞ...



良い匂いですね  
何使ってるんですか？

聞いたら  
変に思われるかなあ...

ガッ  
ガッ





宿題に集中しはじめたので音を立てないように静かに引き出しの中を探す。

つい先日友達に『女子■学生がすごく喜ぶ飴』なるものを譲り受けた。

およそ今まで見たことの無い包みで聞いた事のないメーカー。

海外のかと思いきやがつつり日の国表記。

3本貰ったから試しに1本食べてみたけどまあ、普通の飴。

『いいか？■■に食わせるよ？』  
J■にだぞ？』

と、気持ち悪い感じに微興奮してのたまっていたが何か理由が？



『■■■■にしか解けない問題』  
とか時々ネットで  
目にするけど

そういった感じのアレで  
■■■■にしかわからないおいしさ  
みたいな？

まあなんでもいい。

どうせ取っておいても  
賞味期限が切れてしまう  
だけだし  
毒見は自分でしたし

どうせならと言うことで  
この子にあげる事にした。



「先生解けました！」  
「うぬ。」

「じゃあご褒美をあげようぞ。」

「ははー……………」

わ：見たことない♪  
「だろ。」

貰ったんだけどさ  
そんじよそこらには  
売ってない臭がすごいよな。」

「あ、おいしー！なにコレ！  
すつごくおいしいです！」

「ほう…よかつたな。  
たんと舐めてくれたまえ。」

（驚き方が素だ。

やつぱら■■■■の舌だと感じ方が  
違うのか？）

「それじゃ残りの問題も片して  
しまいますね。」

「おう。」

スラスラと解いている。  
非常にスムーズ。

（…さっきの問題

本当にわからなかったのか？  
ま、いーけど。）



カカカカと控えめな音を立て  
飴をころがしながら  
かりかりと問題を解き  
進めている。

午後6時過ぎ。

年の瀬も近いこの時期  
外はすでに真つ暗だ

なーんかこの感じ悪くねえなあ。  
兄心をくすぐるといふか。  
父性が湧き上がるというか。

妹とか居たらこんな感じ  
なのかね。

まあでも、ここまで優等生じゃ  
ねーだろな。  
俺んちの血じゃ。  
そもそも宿題しねーだろ（笑）



「……………」

できれば友達…的な関係になつてみてえけど

親の目もあるし  
こいつもすぐに飽きるだろうし。

きつと半年後にはまた  
挨拶すら交わさない感じになつてんだろうな。

もつと人付き合いの上手い  
人間だったら  
違う展開もあんのかね…





.....

ひたっ

Cream  
Lollipop





ん?

.....

トロリン

Cream Lollipop









どう...した？

...

...



ど、どの問題？

わかんない…





この気持ちを  
どうしたらいいのかな...

ん？

なんでもない  
です...



愛利って  
呼んでくれないのは  
なんでですか？

え？

嫌いだからですか？  
私の事…

はっ？







何事っ!?

距離を取りたい気持ちの  
現れでしょうか



愛莉

な、なんか変だな  
藍田ちゃん、

あ、愛莉ちゃん



な？

ちよ、ちよっと  
待ってくれ  
1回待ってくれ

.....



えと...  
どうした？

...



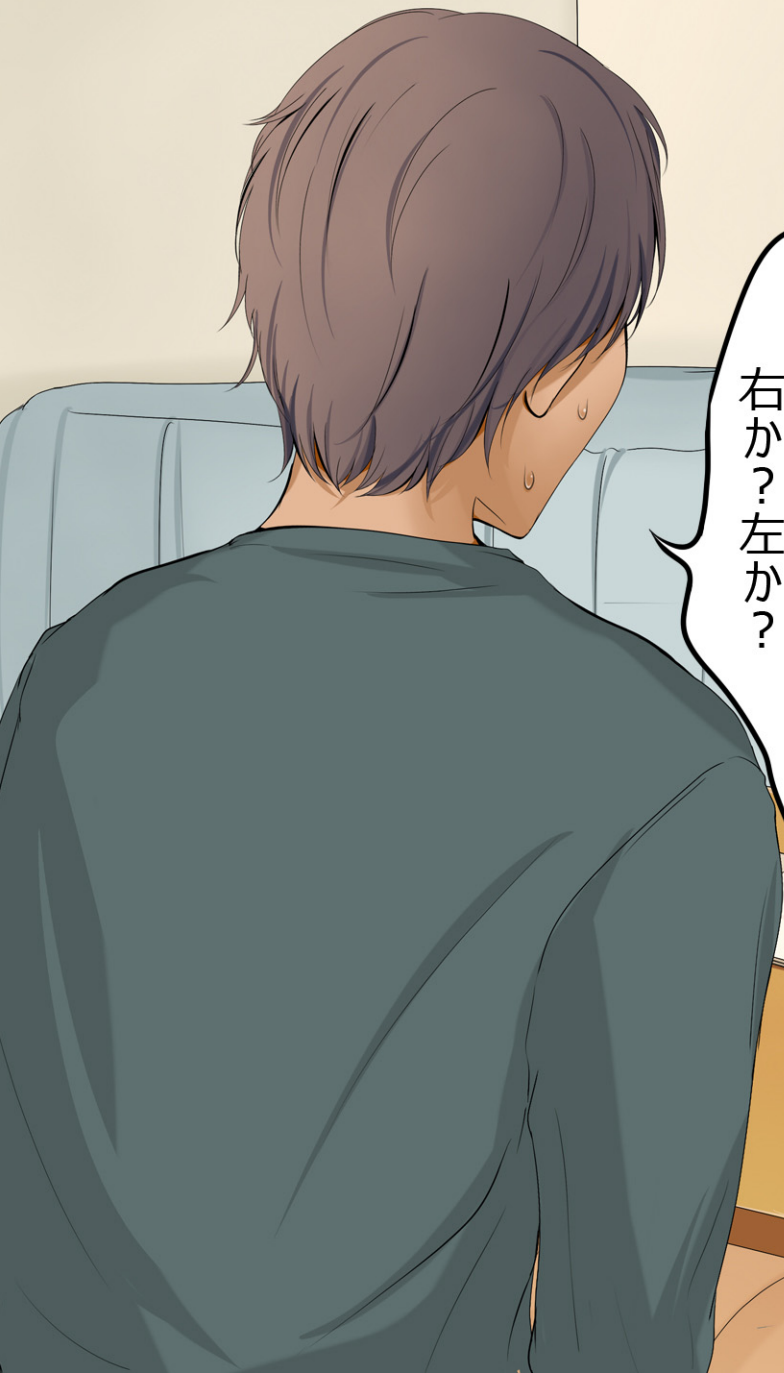


体が変わなんです

変?  
変とは?

なんか  
お腹の辺りが

え？お腹？  
場所によつてはアレだぞ  
どの辺だよ  
右か？左か？





えとですね…





Cream  
Lollipop

な

ん

辺…  
じりり…

あああつ!?

びりり  
びりり

Cream  
Lollipop

は





Cream  
Lollipop

!?

!?

!?

.....

どこ見てるん  
ですか？

こつちを  
向きなさい

.....









は？

ん、なに？

Cream  
Lollipop

しよ触診くしんとか…

しちやわなのの？

しねーよー！





ほんほんペイسن

ほんペイسن

あつ！

わかった  
飴だろつ！

愛莉ちゃんっ！

はい？

飴吐き吐かせ

やです

飴を渡した友達  
あんのボツケエ！  
なんてももの  
くれてんだっ！



いいからっ！

あっ…

かの  
づ

Cream  
Asollen  
☆

||  
||  
||





他人の子供から無理やり  
お菓子を奪う大人って  
実在するんですね

何言ってるの!?





.....狭間さん.....

なんだよ

.....

子宮が切ない…

コ  
コ  
ヘーっ！

おかしいぞっ！  
「変」とかじゃない  
「異常」だっ

Cream  
☆Kawaii☆

ハキハキ  
ハキハキ

この気持ち  
どうすればいいんで  
しょうか…

知るかつ！  
と、とりあえず俺が食って  
死んでねえから  
命には関わんねえと  
思うけどっ！

どうするっ!?  
どうすんだよっ!!

いまなら  
ナタリー・ポルト  
レオ  
気持ち……

あつ！  
そうだった！

わかるかも

あいつに  
電話っ！！

Cream  
Kollipop

観ました？あ

の

映

が

愛莉ちゃん

とりあえずもう

何もしゃべるなっ

世捨て人  
黒歴史ドM  
みたいになっ  
てんぞっ

いま

犯人に電話するからっ！

?

※効果消失

あれ？

.....

早く帰るー！

トゥルル

トゥルル

くそっ！



もしもしっ！  
おいっ！…くっこそ

これ聞いたら  
すぐ掛け直せよっ！  
いいかつ！すぐだぞっ！

愛莉ちゃん  
ちよつと待っててくれ

自分でもわかるよな？  
飴が原因だそれ  
今ネットで調べるからっ！







なんて検索すりゃ  
いいんだよっ！

かちや  
かちや  
かちや  
かちや

ク  
ク

おっ！  
コレダっつ！！

えーとなつ  
個人差はあるけど

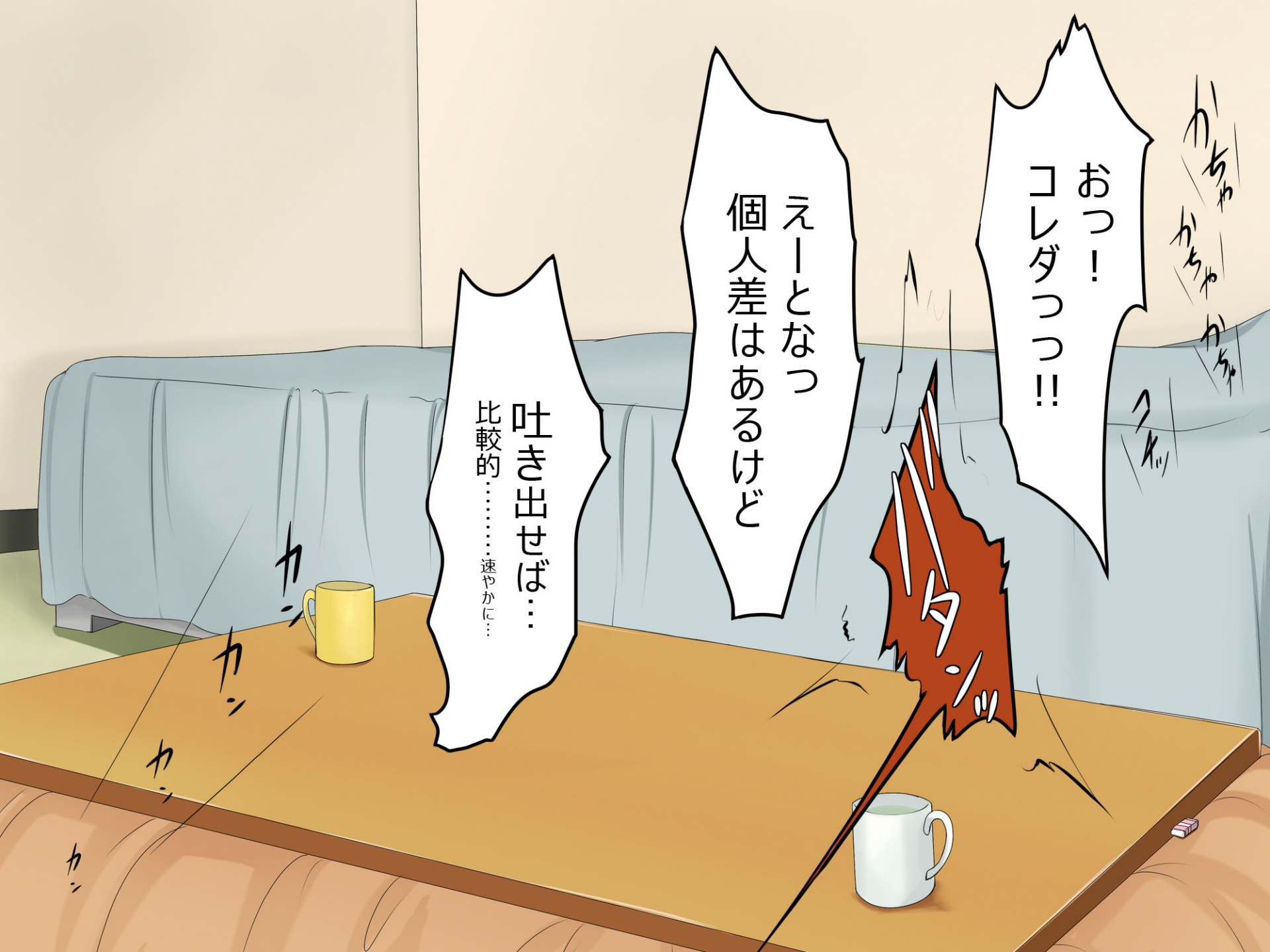
吐き出せば…  
比較的……速やかに…

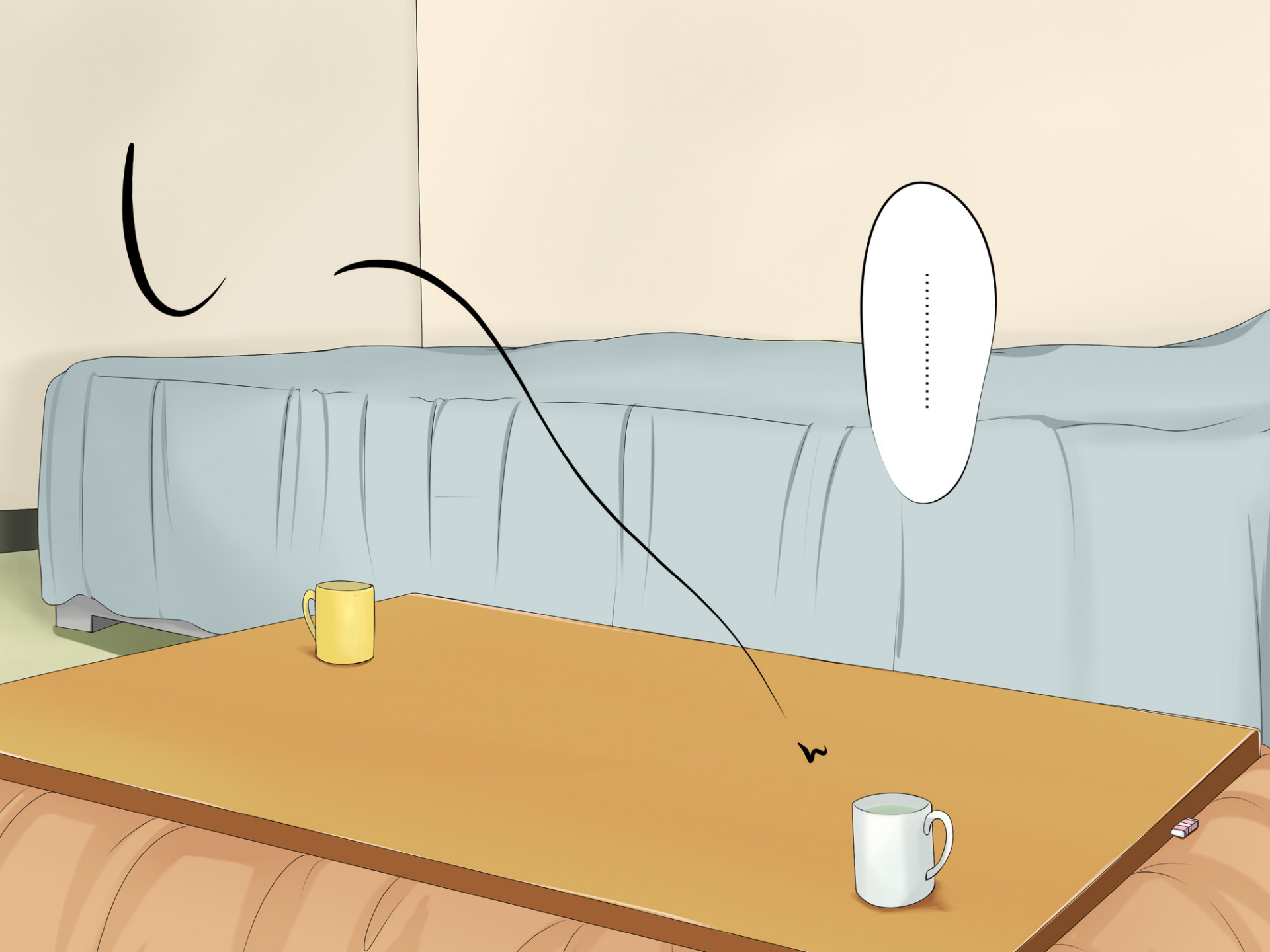


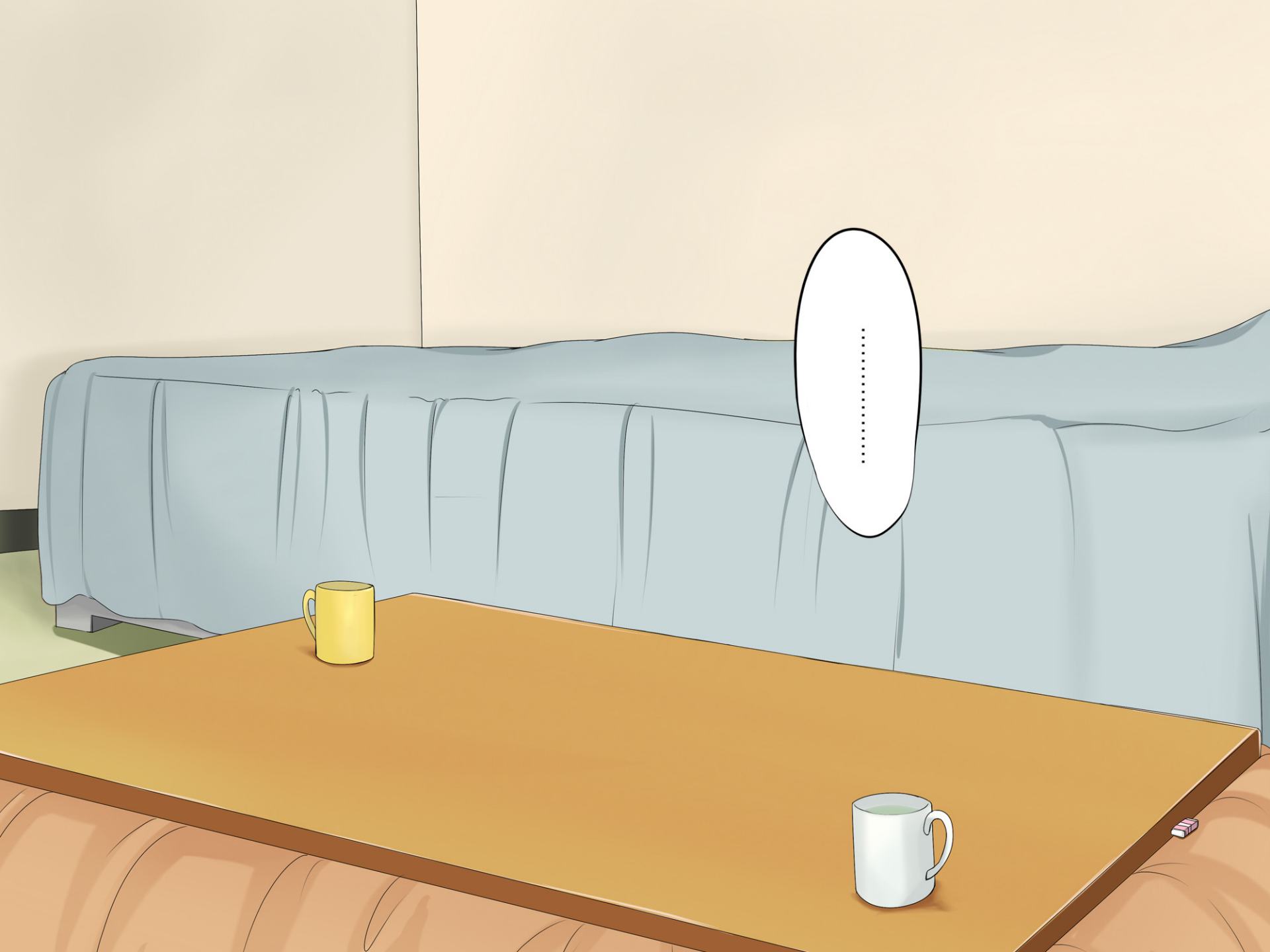
カ  
カ  
カ

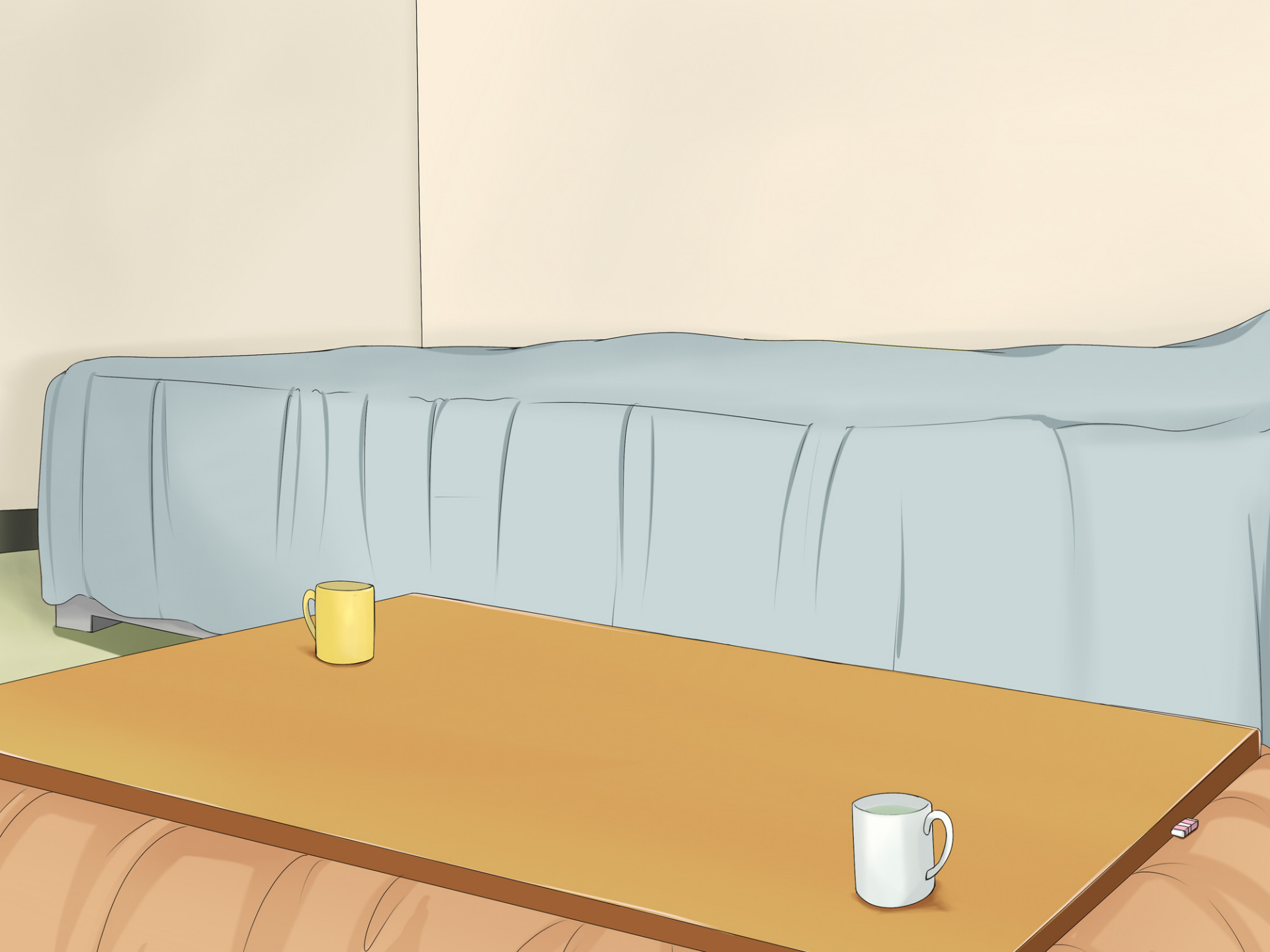
カ

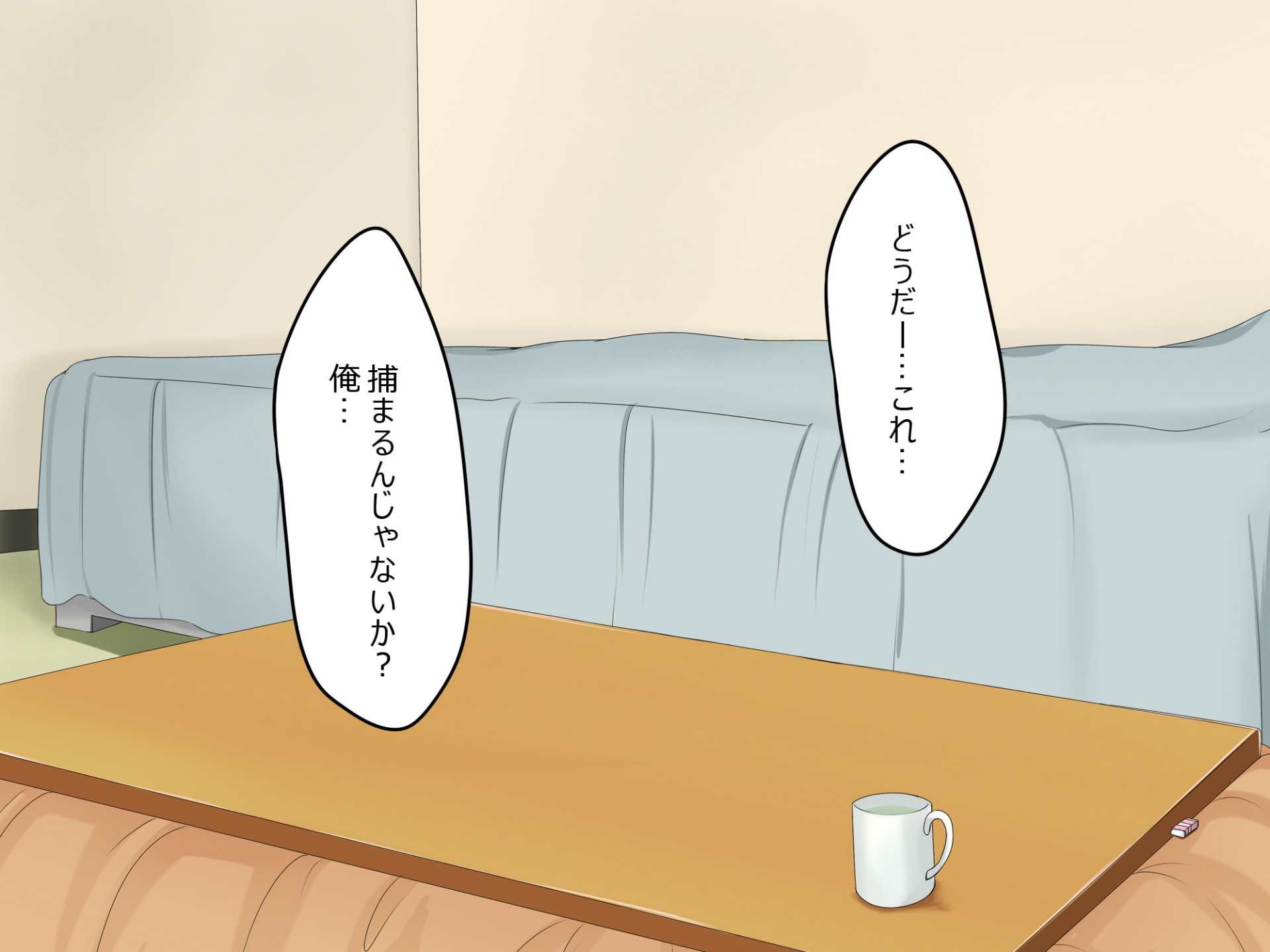
カ











どうだー…これ…

俺…  
捕まるんじゃないか？

何を言ってるかわからねーかも  
しれないが  
俺も良くわからねえ。

ありのまま今起きた事を  
まとめるぜ…

まずこの飴。  
本物だった。  
本物の媚薬だった。

ご承知の通り  
マンガやなんかで登場する様な  
あんな淫らな効き方をする  
媚薬は存在してないよな？

麻薬でもなく精力剤でもなく  
興奮剤でもなく

『媚薬』  
これは残念だが今のところ  
空想上のものだ。

にも関わらずまさかの本物。

明らかに生娘が  
突然色に狂ったようになった。

俺も丸々1本舐めたけど  
全く効いてねえ。  
だから女性専用だと  
思われる。



そしてそんな代物を  
俺は近所の■■■に  
盛ってしまった。

知らなかったとは言え、だ。

しかも盛った相手は先週  
会話し始めたばかりの  
圧倒的な他人。

一度暖を取らせたからなんだ？  
あの子の親は俺に対して  
情状酌量のとっかかりすら無い。

むしろ先週の善行は  
下心があつたからだ  
とそう捉えるだろう。

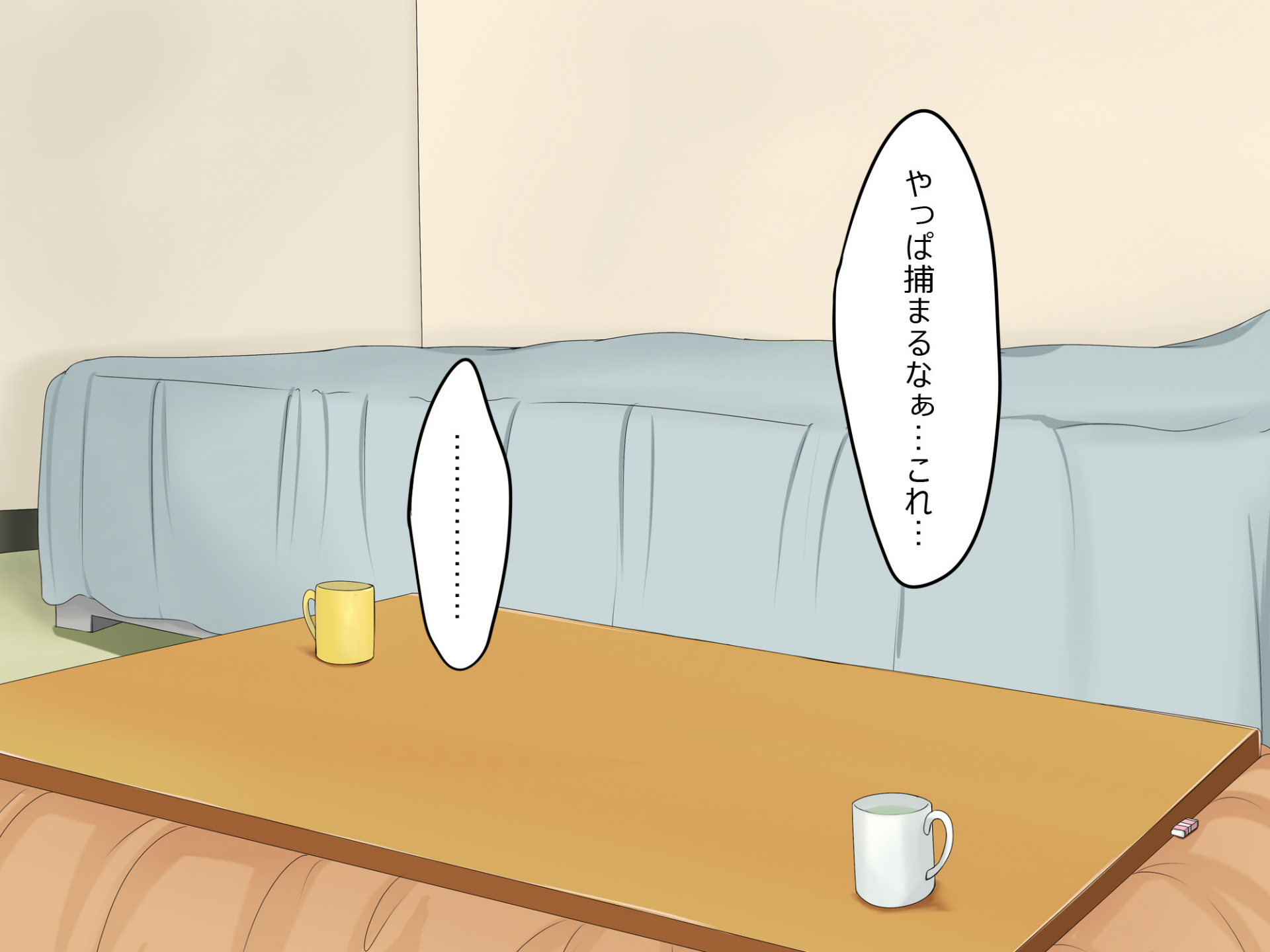
客観的に見ると俺は

『近所の子をひつぱりこんで  
薬を盛ってレイプしようと  
していた下衆野郎』

じゃねーの？

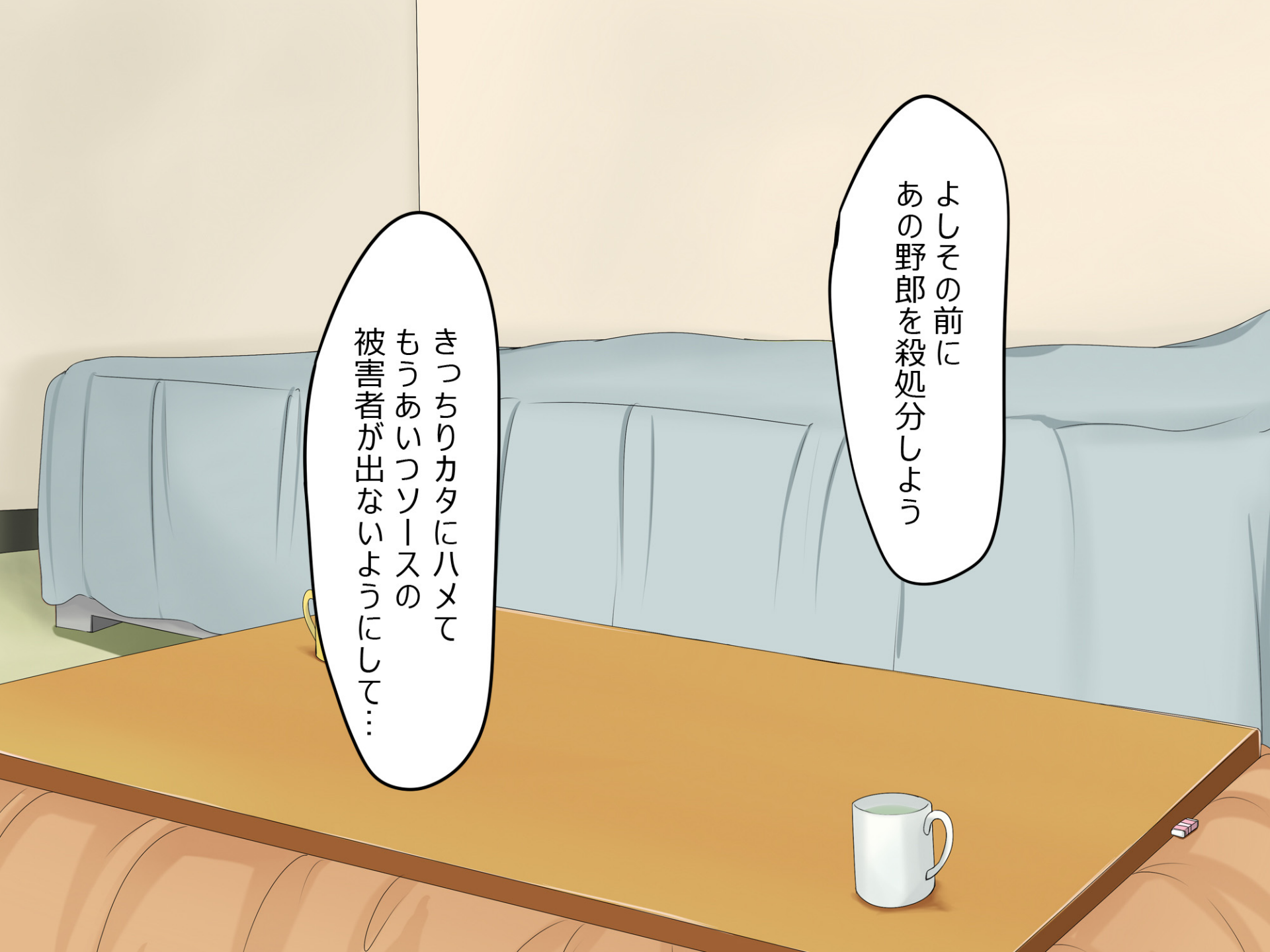






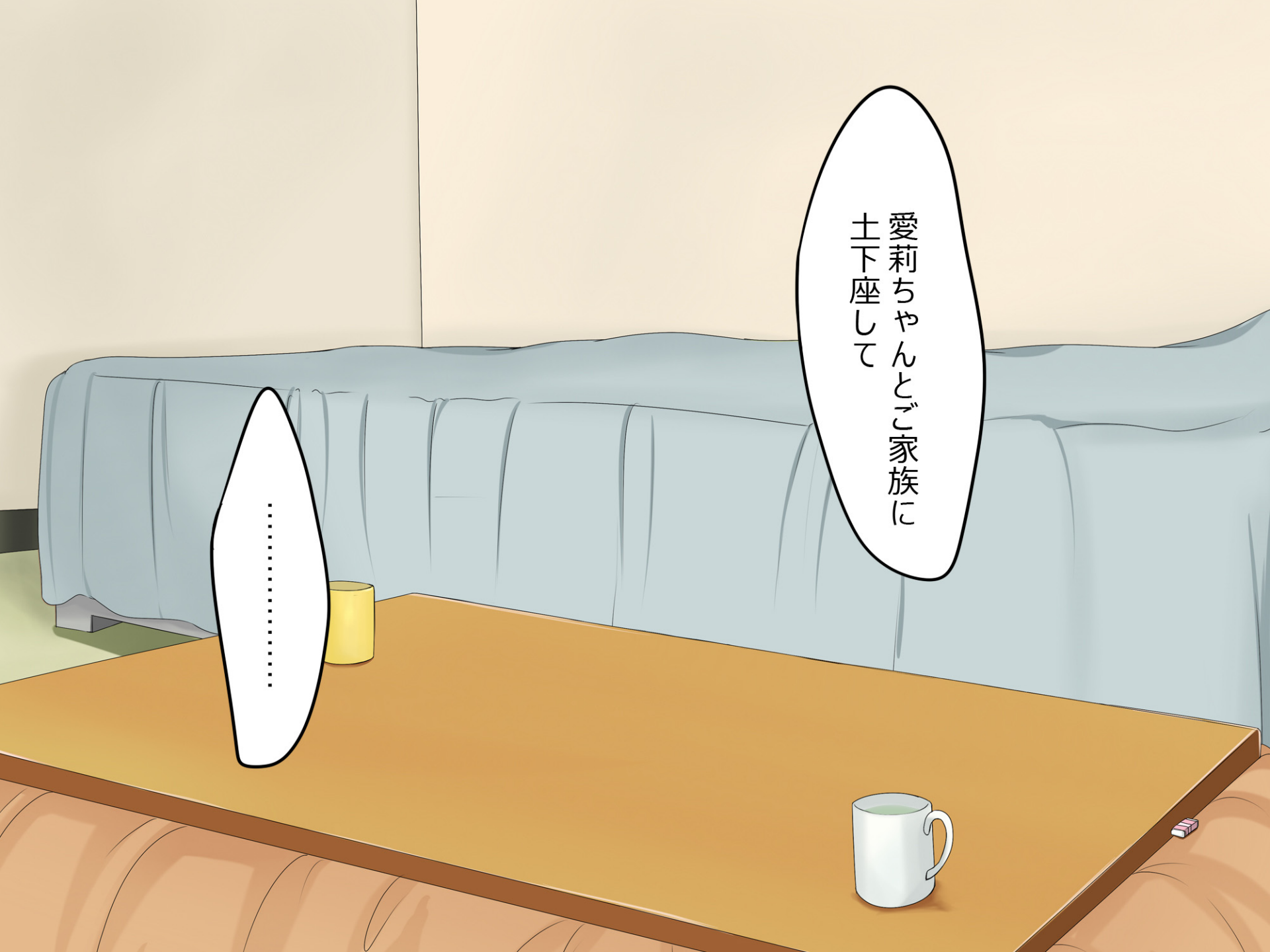
.....

やっぱり捕まるなあ……これ……



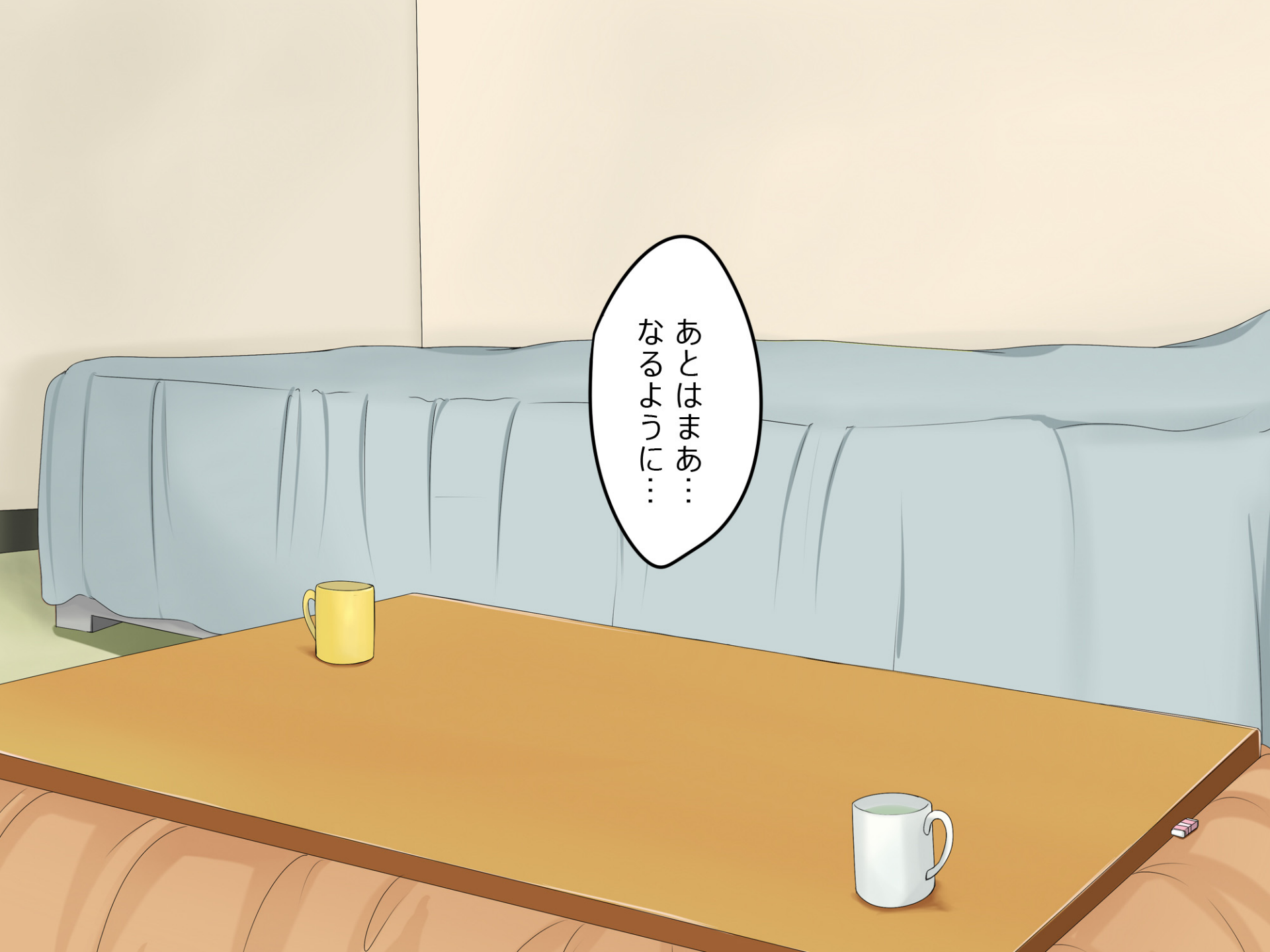
よしその前に  
あの野郎を殺処分しよう

きつちりカタにハメて  
もうあいつソースの  
被害者が出ないようにして…

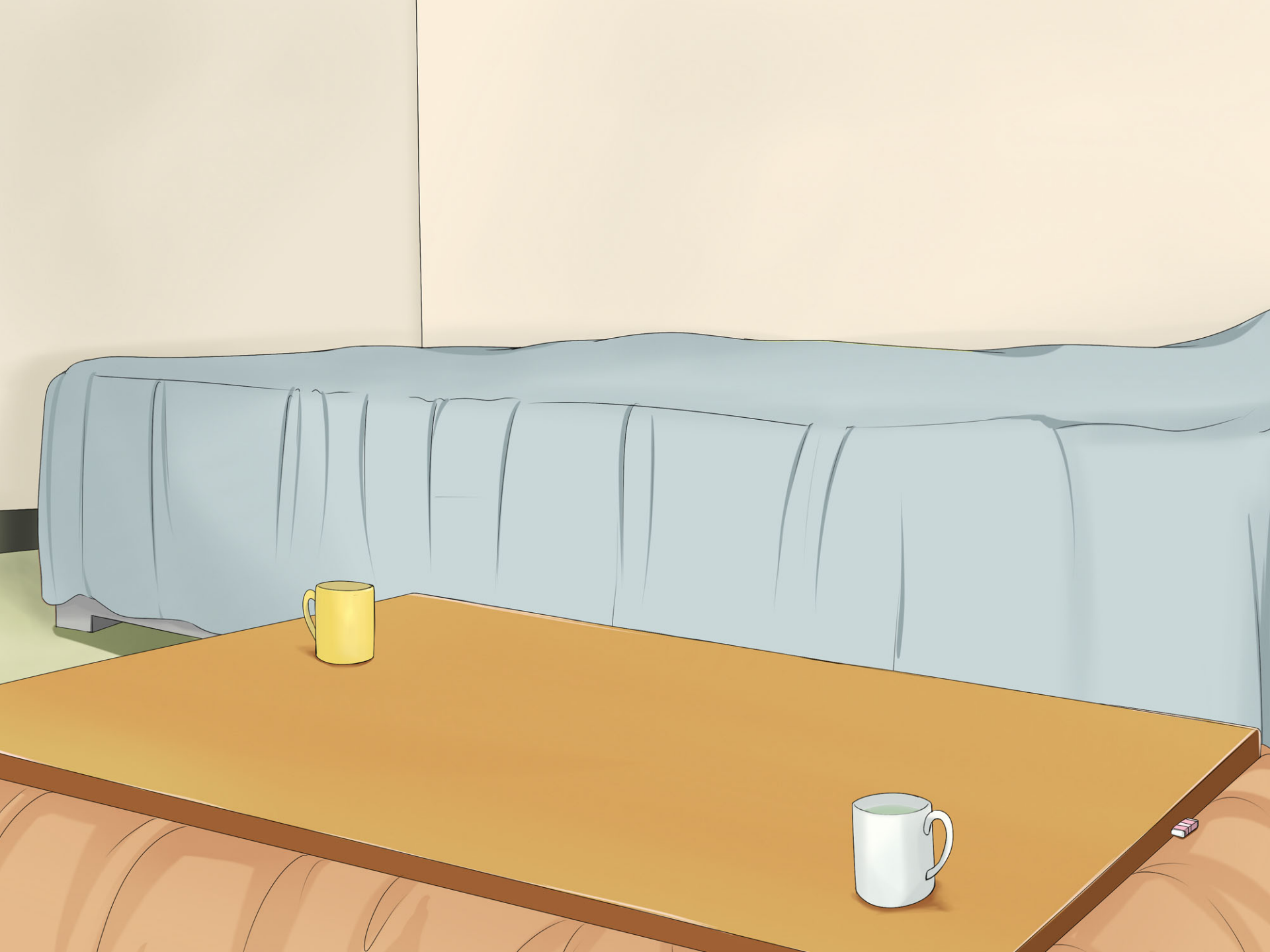


愛莉ちゃんのご家族に  
土下座して

.....



あとはまあ…  
なるように…








2  
週  
間  
後

午  
後  
5  
時  
頃



あの後  
例の友達をカタにハメた。

具体的にはグーで2回殴った。

あいつは  
結果が予想できながら  
思春期まつただ中の少女を  
傷つける仕込みをやり

友達であるはずの俺を  
危険な目に遭わせた。

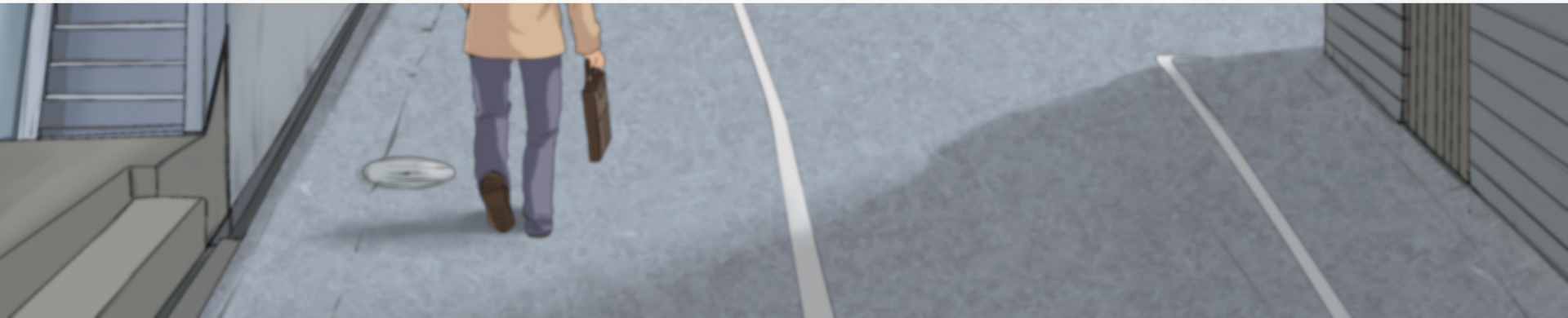
簡単には清算できないぞ。

でも、謝罪させようにも  
愛莉ちゃんを  
特定されたくないし  
愛莉ちゃん本人もそんなもの  
望んでいないだろう。


それに：ヤツ自身が  
本当に悪い事をしたと  
思っていない。

まだどこか冗談めいた  
態度をとる様には  
ほとほと愛想が尽きた。

俺は縁を切る事を  
決めた。







それはそれでいいとして。  
残る問題はソイツが  
喰ってるかどうかだ。

あの飴で女子学生とかを。

やってるなら絶対に見過ごせん。  
100歩譲って舐める前に  
効果の説明↓同意を得てなら  
まだしも

不意打ちで盛つての話だ。  
飴の影響で  
女の子から迫つたとしても  
それは明らかに強姦だろ。

問いただしてみると

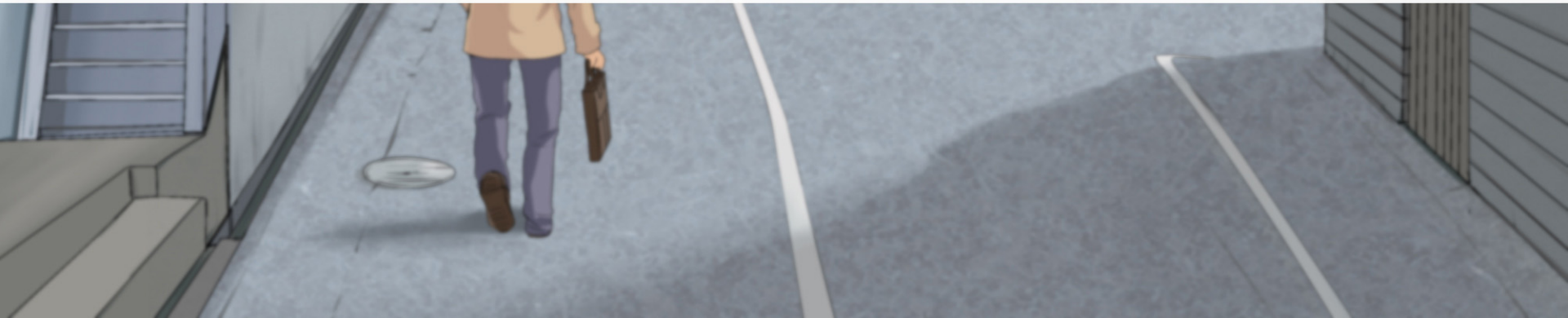
『やってみると意外に難しい。  
条件十分で舐めさせるのは  
どうやっても無理だった。』


との事。  
だから自分でするのは  
あきらめて俺にくれたんだ  
そうだ。

最後に

『お前はどうかやったんだよ  
教えるよ。』

とのたまったので  
キックも入れておいた。





ゲスの極み男と話をつけた後  
腹を括って藍田家を訪ねる。

20時過ぎだったかな。  
母親が帰宅している頃に。

実害は無かったものの  
乙女心を深く深く傷つけた  
だろう事は  
鈍感な俺にでもわかる。  
ちゃんと謝罪するべきだ。

先に自分から謝りに行けば  
誠意を買われ  
タイーホだけはなんとか  
免れられるかもしれない。

そういう期待が無かったと  
言えば当然嘘になる。


とにかく、俺は謝りに行った。

結果としては

『お茶をごちそうになつて  
雑談して帰った』

こうだった。





まず愛莉ちゃんが事件の事を  
母親に話してない。

次に暖を取らせた日からこつち  
家で俺の話ばかりするようにな  
っていたらしい。

だから自分の帰宅の遅い  
ちようど今日にでも  
勝手にお邪魔してご迷惑を  
お掛けしていないかと  
心配になっていた。

それで文句を言いに来たのかと  
母親は思ったそうだ。

愛莉ちゃんはその間  
部屋から出てこなかった。

『恥ずかしいからやだ』と  
ドア越しにそう言っていた  
らしい。


首の皮一枚で繋がった訳だ。

しかしそうなると新たな問題が  
生まれる。

『では

どういった御用です?』





夜の8時にたずねて来たんだ。  
そりゃ何事かと思う。  
文句言いに来たんでも  
無いのなら、じゃあなに？  
と誰でも思う。

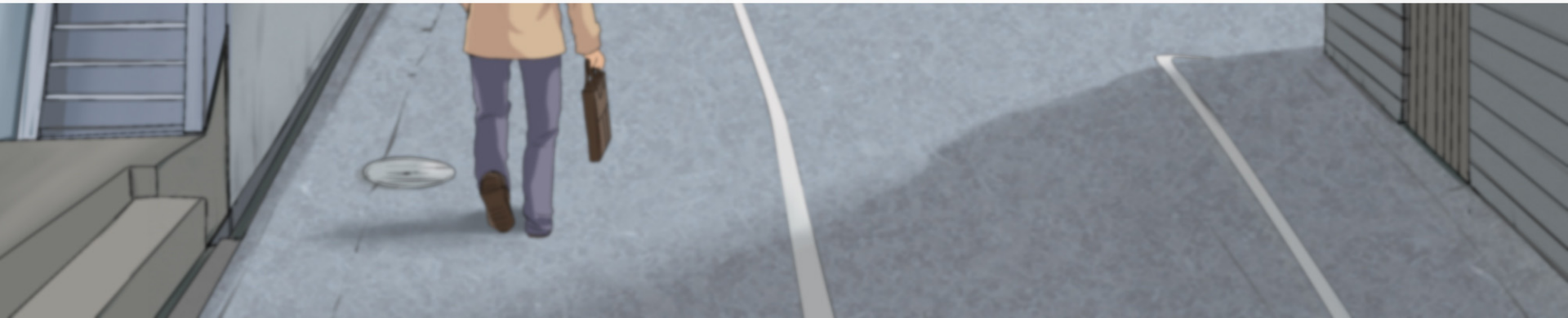
ここで一切合切を告白するのは  
ただのバカだ。  
そもそも愛利ちゃんか  
隠しておきたいと望んで  
いるかもしれない。


苦し紛れに俺は言ったよ。

『この近辺をうろろろしてる  
変質者っぽい輩を  
最近よく見ます。  
今日も居ました。』

差し出がましいようですが  
警報ブザーなんかを  
持たせた方が良いかと思い  
進言させて頂いた次第です。

あとお母さんご不在の時に  
もしこの近くで何かあれば  
気を使わずうちに  
避難しにきてくれていいと  
お伝えしようと：  
本当に差し出がましい  
ですが。』





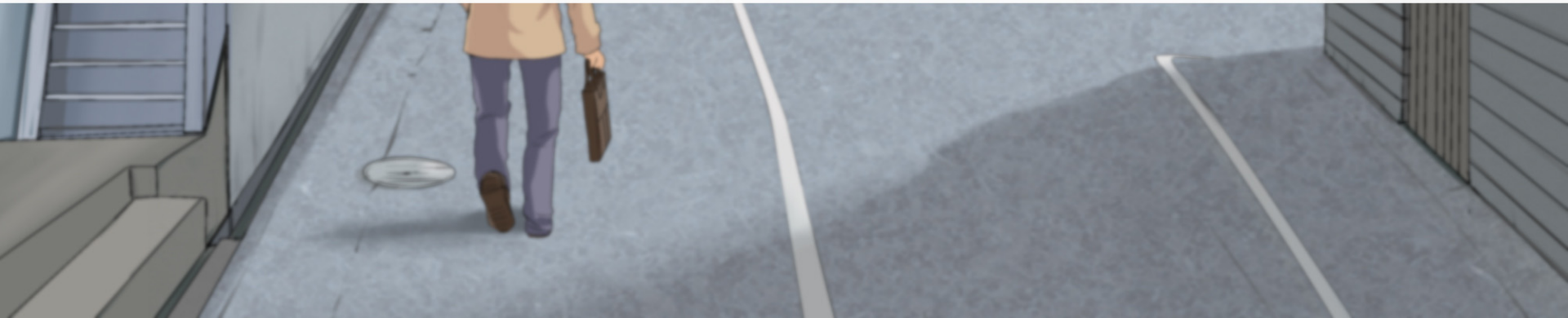
よくもまあペラペラと  
口からでまかせが出たもんだ。  
まあプリズンされないように  
必死だったわけだが。


『気づきませんで：  
ご丁寧ありがとうございます  
ございます。』

と、感謝された。

善人にウソつくのは  
本当に心苦しいもんだなあ。

とまあそういう顛末で  
事なきを得たわけだけど  
結局あの子に謝っては  
いないし  
その後の様子も気になる。





先週は…玄関に居なかった。  
当然か。

しかし  
少女の複雑で多感な心情を  
理解し得ない俺が  
詫びたいというのは

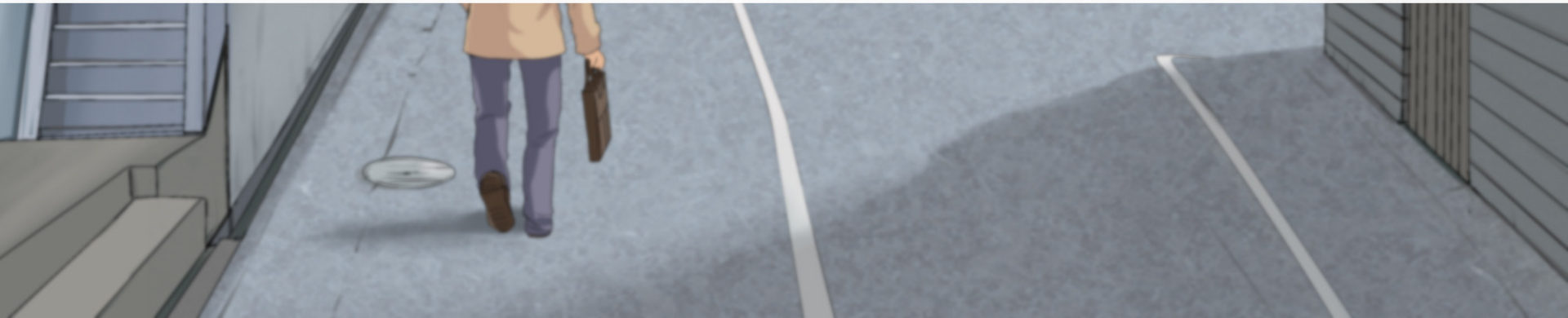
気持ちですつきりさせたい  
こつちの自分勝手だ。


そんなんで無理に訪ねていく  
わけにもいかないからな…。

という事で  
もやもやしたまま  
2週間が経ち金曜日の今日。

今日こそは  
話ができないものかと

一日中  
仕事が手につかなかった  
わけで。





でもたぶん今日も…  
いや、もう二度と  
口をきく事すら  
無いのかもしれない。

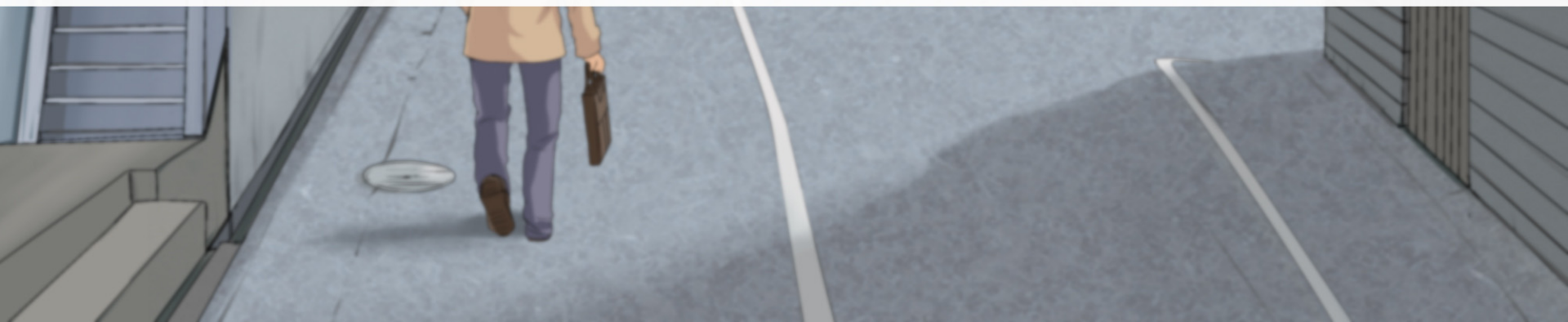
その方が彼女にとつても  
良いんだろう。

今後この道ですれ違う事が  
あつても  
何も言わず目も合わさないのが  
一番良い解決法なのかも  
しれない…

「……………」

そうしよう。  
今日居なければそうしよう。

いや、そうするべきだ。



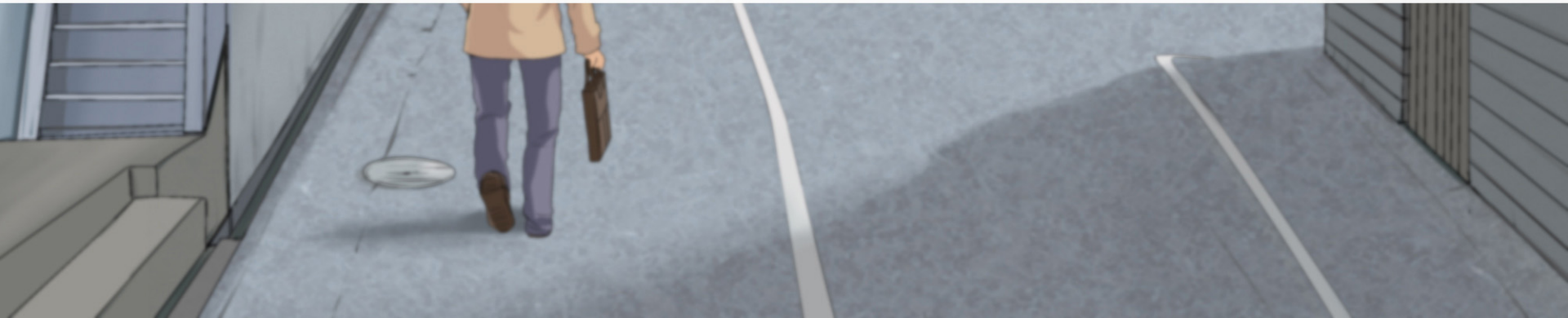
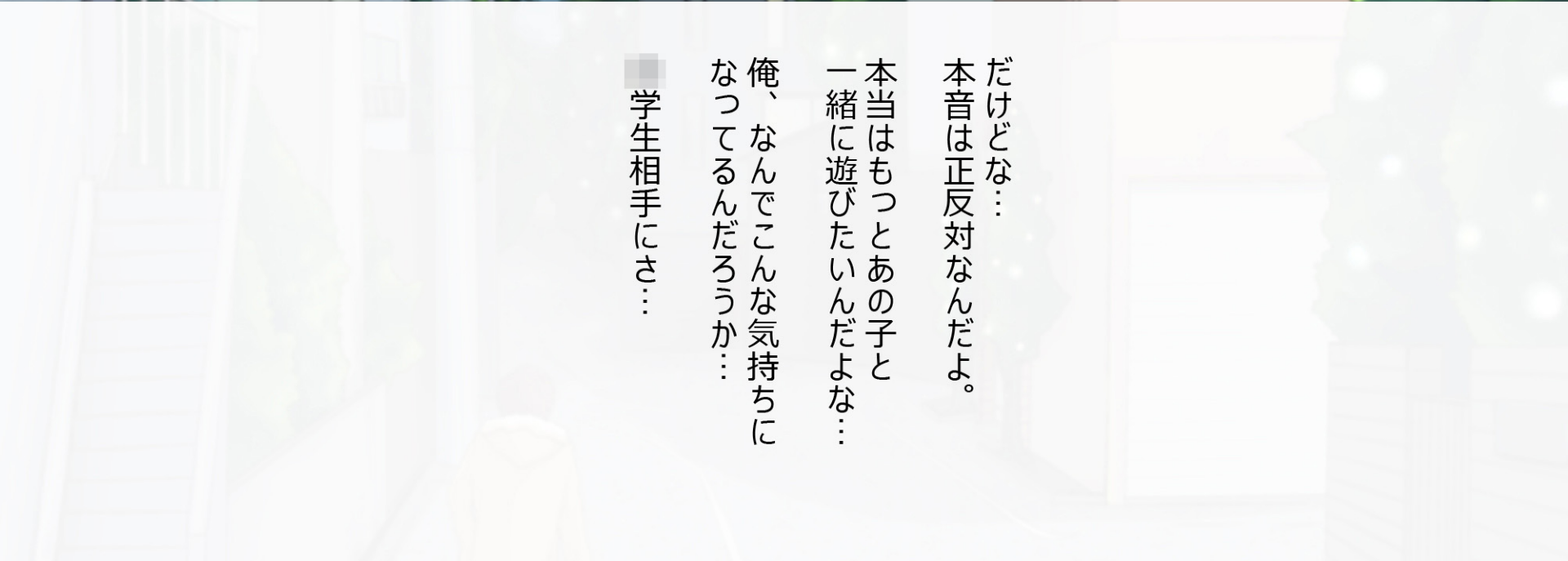


だけどな…  
本音は正反対なんだよ。

本当はもつとあの子と  
一緒に遊びたいんだよな…

俺、なんでこんな気持ちに  
なってるんだらうか…

■ 学生相手にさ…











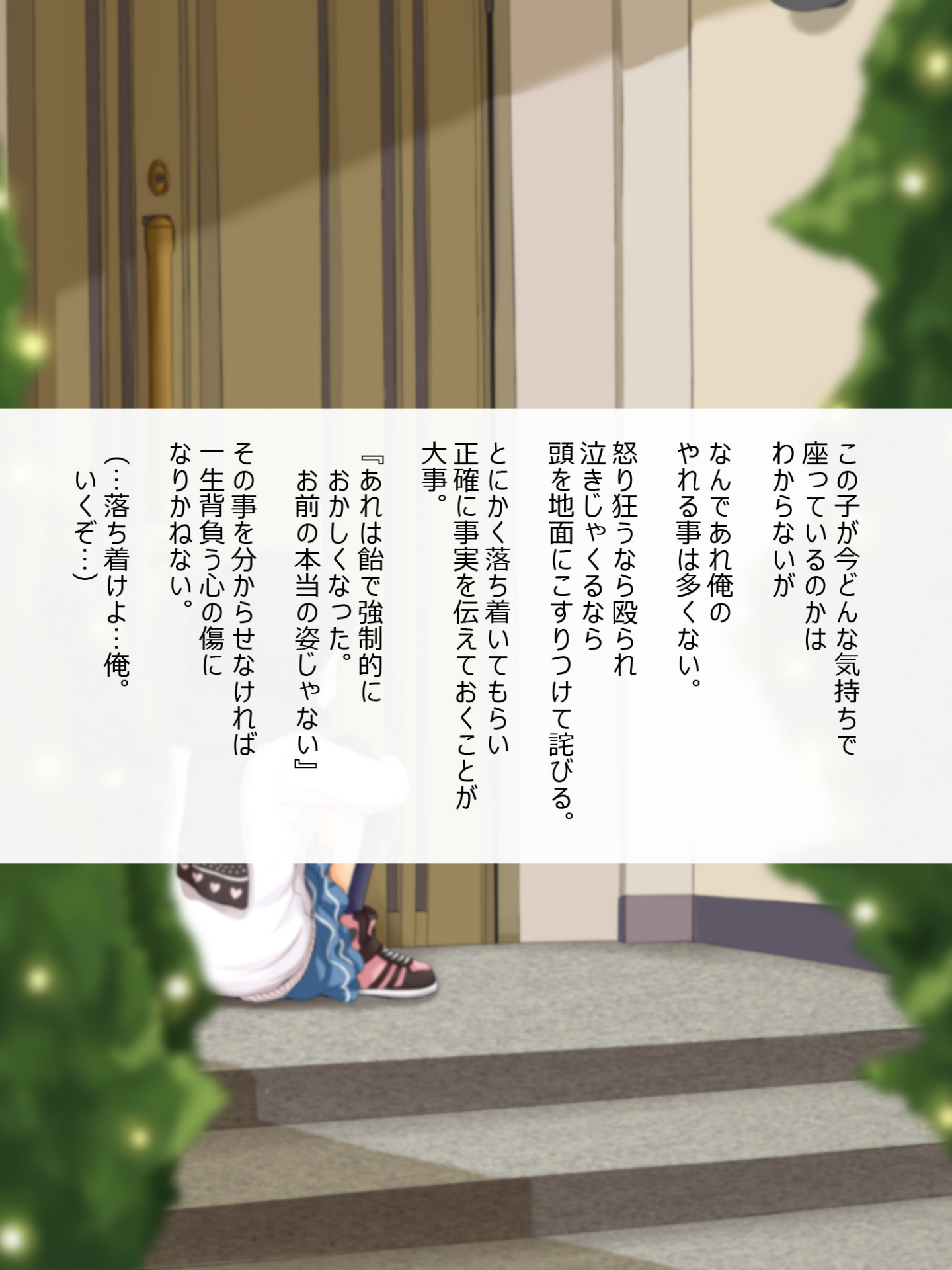
居てくれた……

……居た

.....  
あ、あれ？

俺ちよつと  
泣きそうになってる？





この子が今どんな気持ちで座っているのかはわからないが

なんであれ俺のやれる事は多くない。

怒り狂うなら殴られ泣きじゃくるなら頭を地面にこすりつけて詫びる。

とにかく落ち着いてもらい正確に事実を伝えておくことが大事。

『あれは飴で強制的におかしくなった。お前の本当の姿じゃない』

その事を分からせなければ一生背負う心の傷になりかねない。

(…落ち着けよ…俺。いくぞ…)





愛莉ちゃん

あ

こ、こんばんは…

は、狭間しゃん…





あ、あのな話を聞いて、...

ごめ...



あ、あのな話を聞い、

づめんなしやい…

じや、





わ…わたこっ

ちよ、ちよつと  
なんでお前が  
謝んだよっ！

い、いや俺だつて  
ありや俺が  
わりいんだよっ！

こっ

あんなことっ

こっ





こ、こまつ  
困ったなっ

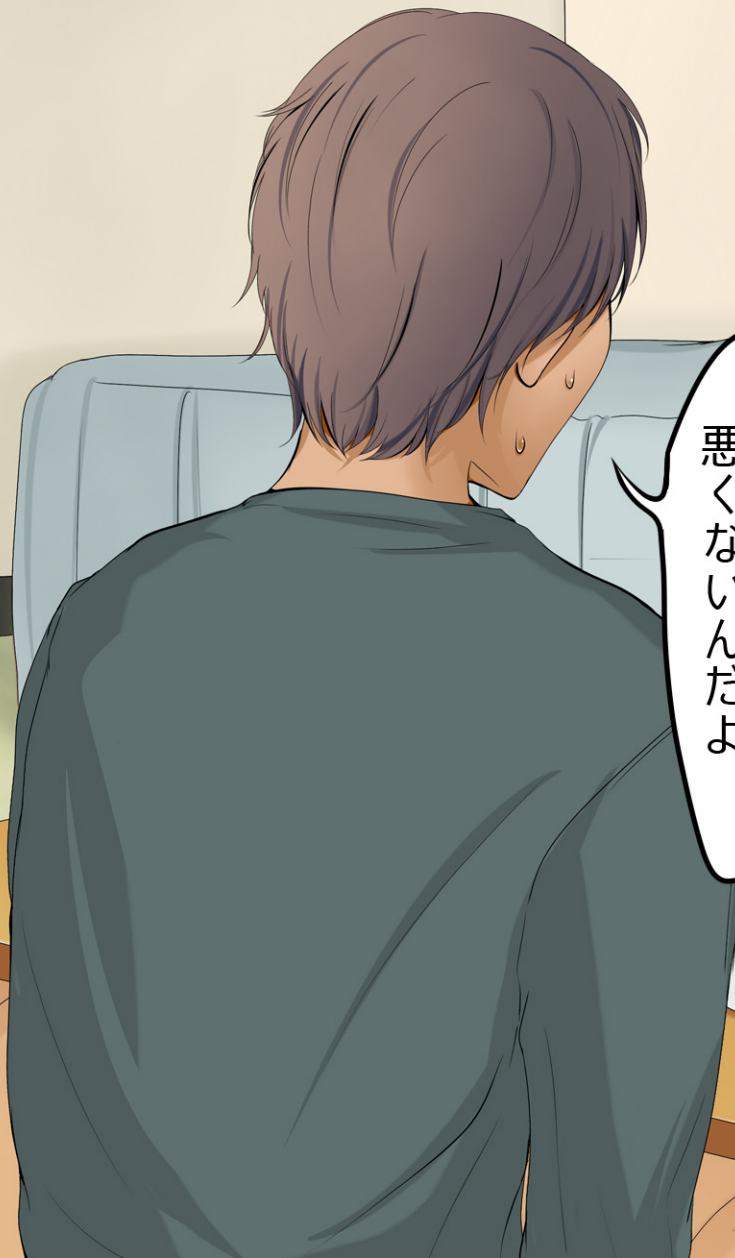
ちよ、ちよつと  
あ、あれ？

だからあれはあの飴の  
せいなんだって

お前

愛莉

愛莉ちゃんは何も  
悪くないんだよ



.....

でも……え………つちな子……  
じやなきや……  
何も起きないんでしょ……？

……ま、まあ……  
らしい……けど……







じゃあ私が……え……っちな子……  
だったから……

……って事じゃん？

……だとしても  
食べさせた俺が  
悪いだろ

だから愛莉ちゃんが  
罪悪感持つのは  
おかしいって



そもそも  
パ……………ンッ  
見せたからって  
そんな悪い事か？

……………



この子の言い分はこうだ。

あの飴は女の子の  
えつちな気持ち爆発的に  
増幅させてしまう成分が  
入っているらしいが

(ずいぶん

オーバーテクノロジー)

性に目覚めていない  
つまり性欲を持っていない  
子には効果は無い。

だから自分に邪な気持ちが  
あつたから  
ああなつたんだと  
こう主張しているんだ。

そんなものが存在している事と  
言わば劇薬とも言えるソレを  
一般人が手に入れられる事が  
そもそもおかしい話だが

自分が悪いと結論付ける  
こいつの考えも理解できん。

だつて…  
変なもの見せて  
嫌な気持ちに  
させちゃったでしょ…？

すごい顔  
してました…

全然

ただ驚いたただけだ  
全然、まったく  
嫌とかじゃなかった

あ…  
そーゆう捉え方  
なのね…



ほんと……に？

ああ  
それどころか……

なんていうか……  
その……





ちよつと  
エロ…かったよ…  
…わりかし…

…え？

エ…





あ、  
ああ……

……エ……□?





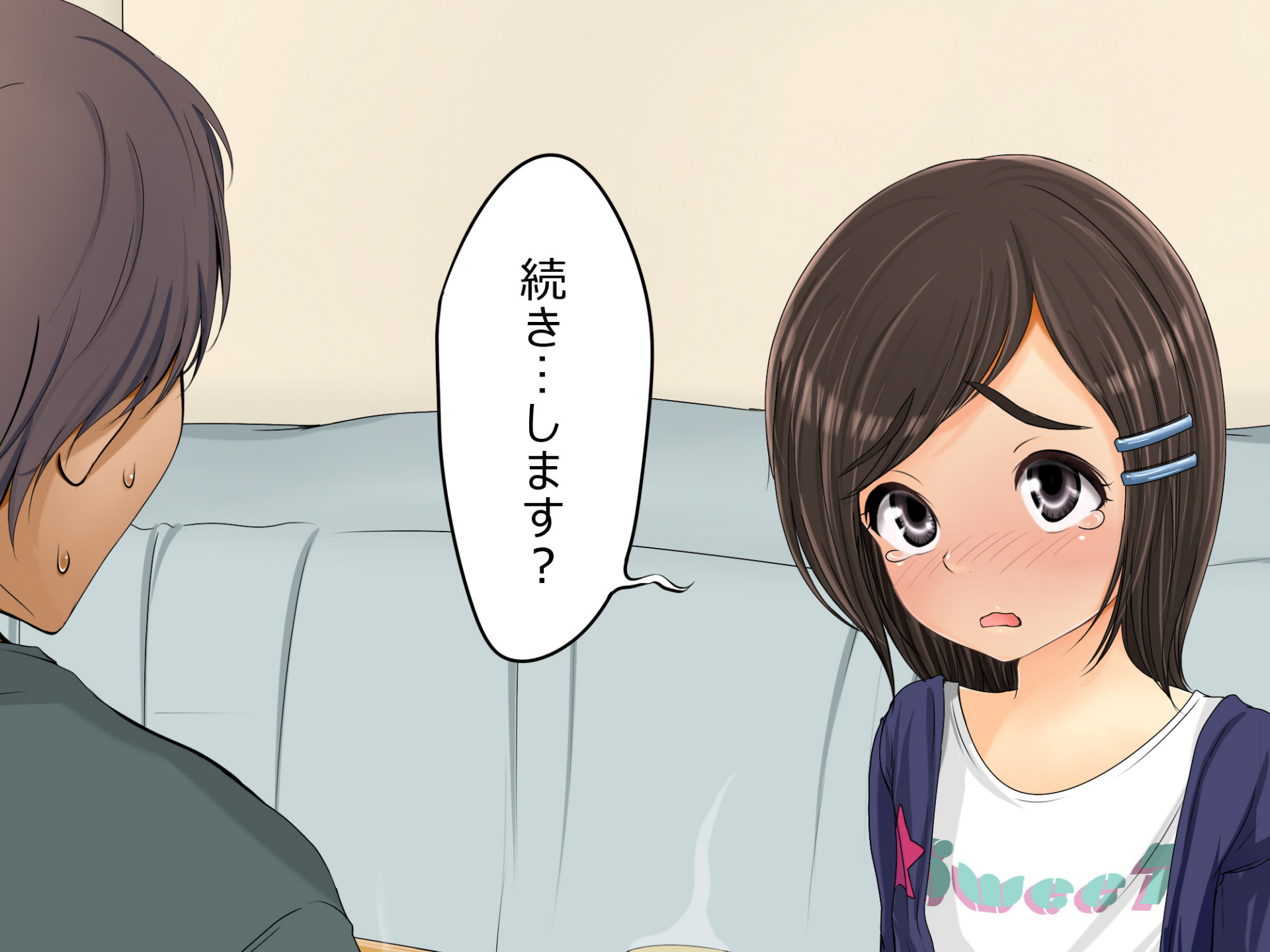




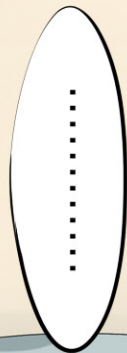
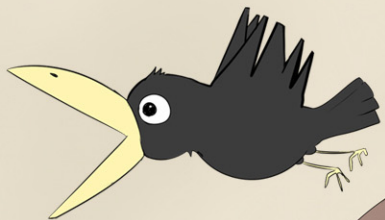




...めさご...



続き...? しまお...?





はっ!?

しねーよっ!  
しねーだろっ?





何言ってるの!?

な、なんで  
そーなつた?

.....

.....



そんなに  
目いっぱい  
否定しなくても  
いいじゃんっ！

じゃあやっぱり  
嫌なもの  
見たって思ってたんじゃないっ

そーは  
ならねーよっ!!

なりますよっ!!

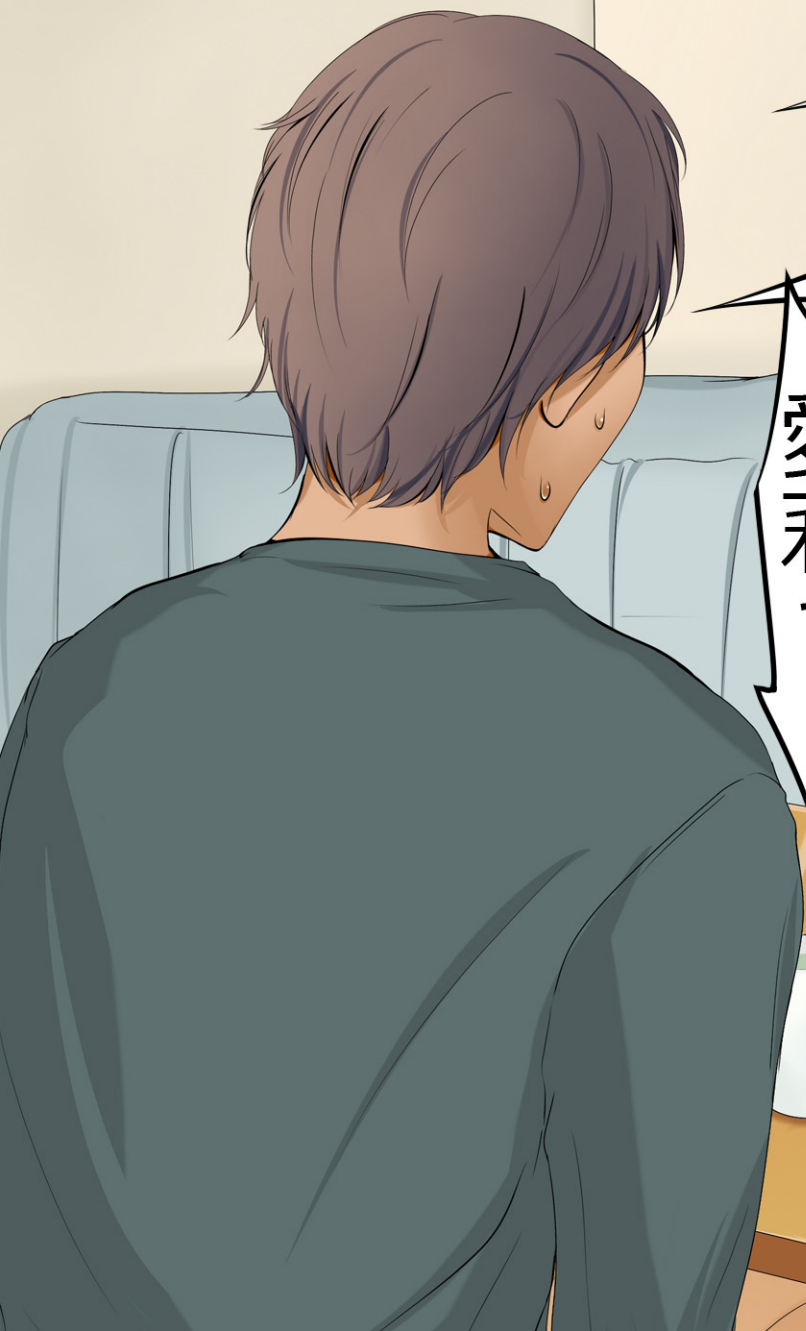
ならねーよっ!!



ならないんなら  
続きを望むでしょ？

あつ！  
わかった！

お前天然だろつ！  
愛莉っ！





いろいろ考えたん  
ですけど

それしか道は  
無いと思うんですよね

他にいつペーあんよ

むしろそれが  
一番茨の道だ







.....

謝って  
終わりですか?

じゃあなんですか  
薬飲ませて  
女の子に恥かせて





そりゃねーわ…

…も、もつともだな…

………

で、でもな  
おま、ま、愛莉ちゃんが  
ちよつとおいとして

そもそも好きでもない  
男とそんな事  
したいって思うのか？





自分で言うのも  
なんですけど  
最近の  って結構  
大人！

それに…

…それに？







ずっと前から...

.....









…好きだったもん





いつ頃から...ですかね？

そんな前から  
ですか？

2年生ぐらい……から……



話したことも  
ないのに...なにゆえ?

.....



さあ…私にも…  
なぜなんだか…



何度も道ですれ違  
うちに…

自然と…



特に理由なく  
近所のお姉さんを  
好きになつた事つて

小さいころに  
経験ありません？

あるわ







じゃ、じゃあ  
結局どーなんだよ

どーすれば  
愛莉ちゃんは  
納得するんだよ



何を  
どーするのか…

ああ、くそっ！

はっきりさせよう  
ど「ま」で  
するんだよ











まだ…  
飴残ってます？

シラフでは  
とても…

自分が何言ってるっか  
わかってんだろーな？

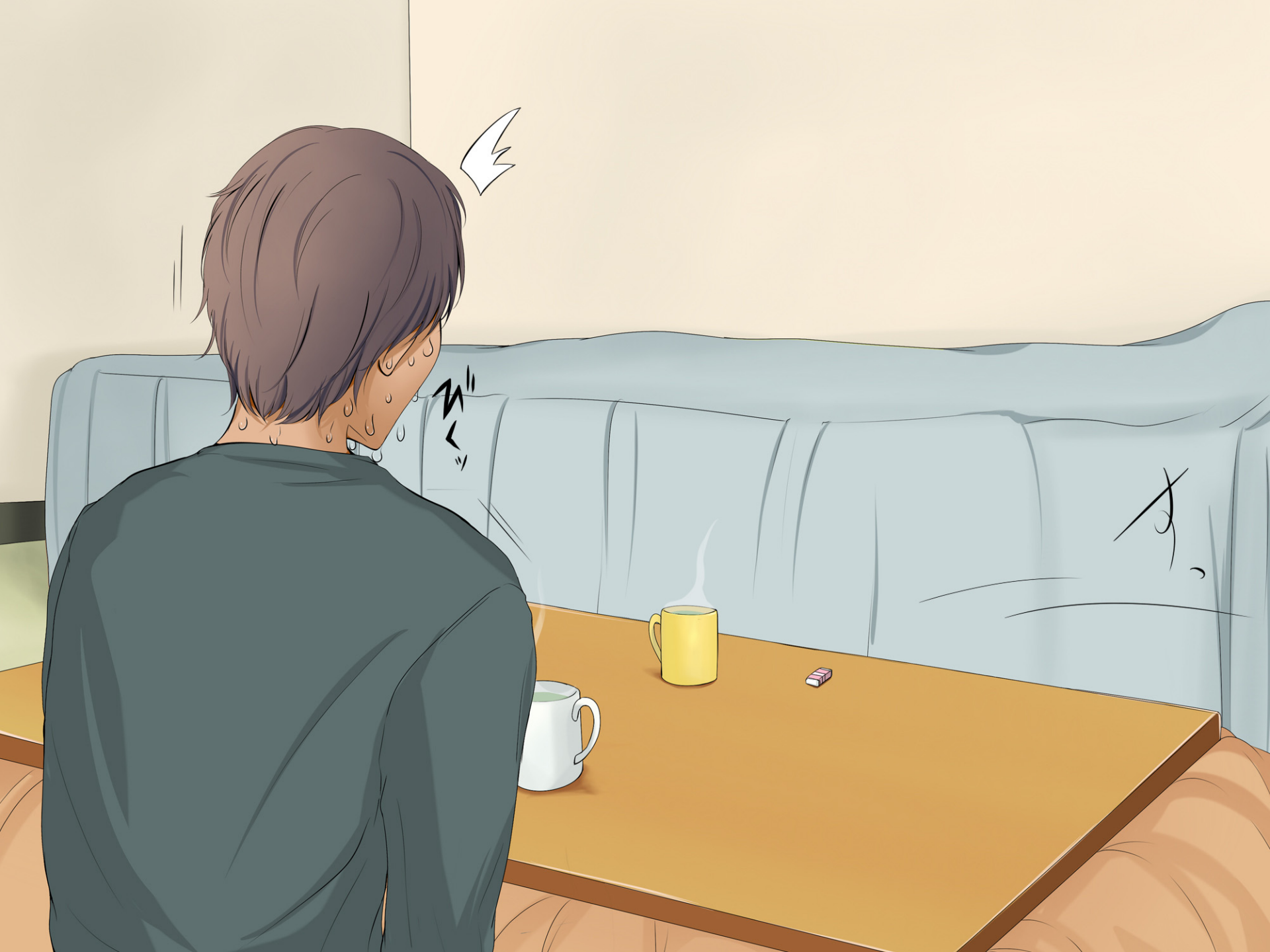
はい

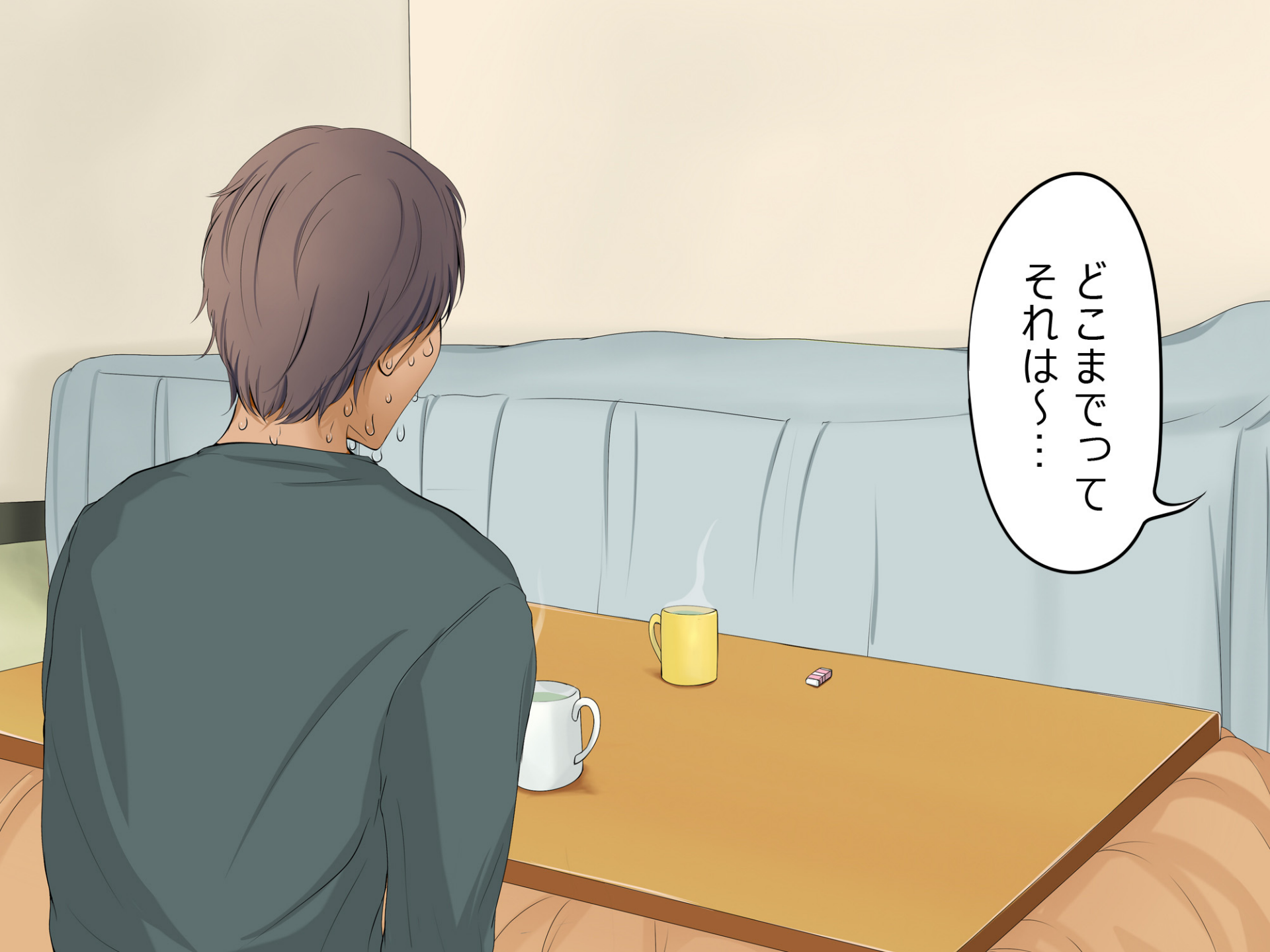












どろりまじり  
それは〜…



ぬ、脱ぎっ！  
脱ぎっ…

!!?

最後までに

決まってるじゃないですかあゝ

やべえつて  
コレ…







さ、ささ  
最後までつて  
て、言うのは……

か、かか、か  
確認だけど、ど、

え、狭間さんって  
そんなやらしい言葉を  
女の子の口から  
言わせるんですか？

まじですか？

だ、だな、  
そうだな無粋だよな

こ、これ以上  
お前に恥かかせる  
なんて、



はい  
まんじゅうの中よくだら

俺なんも  
言つてねーわっ!






もう…  
逃げられねえん  
だな…

.....



!!

性交る...のか...?  
学生と



なんだこの貫禄  
飴が効いてるとは言え、、、

「……っ！」

ま、まさかこいつ  
見かけによらず  
済ませちゃってる子なのか？

いや、見かけっつーか  
歳っつーか：

いやいやおかしいっ  
だしたら  
今までの初々しい様って  
なんだ？

経験済みの子ならこつちの  
気もかなり楽、、、  
っていか話が根っこから  
変わってくるのだが：

しかし  
事の流ればこいつが処女だと  
言っている。





あ

あ

あ

!?

な、なにっ!?



.....

何がっ

ほらあ  
気づきませんか？



だからあ

ほら…  
垂れちゃってる

たれ、、、





オナニーは  
よくしますけど

垂れるほど  
濡れたの初めて  
です

まあいきづらいから  
こんな姿勢でオナニー  
しませんけど (笑)

うわあ…  
なんでも喋ってんな  
こいつ…



やっぱり：  
好きな人に  
見られてると  
思うと

興奮しちゃうん  
ですね…

き、極めて意外だし  
違和感も残るが…

………



恥ずかしい…

……

どうやら経験済みの子  
なのかも…

きつとそうだ…  
よ、よし

ならばそんなに  
シリアスに考え  
なくても、

処女なのに…

だよなっ！



.....

ラリった：  
処女学生に  
詰まれた俺：

今...ココ...



狭間さんも童貞だったら  
最高だったんですけど

そんなワケない  
ですよね？



やつぱり飴でおかしくなってるだけ。そりや処女に決まってるよ。こんなまじめな子。

『思春期入り口女子』

本当ならちゃんと付き合ってもっと時間を掛けてこういう行為に至りたい。至つてあげたいのだけれど

「……………」



愛利ちゃんの目はますます色を増し妖しくこちらを見つめている。ほつといても飛び掛つてくるだろう。

こうなつてしまつたら…いや、そもそも止めるつて選択肢はもう選べない。

だからいい加減腹を括る。腹を括り、認める。





ロリコンの気持ち  
が全て分かるよ  
うになつたとは  
言わないが

確かに女子学生、エロい。  
ソソる。  
もう認める。

成長過程において  
ほんの短い期間  
だけに在る  
美しさの凝縮され  
たこの姿に

エロティシズムを  
感じるの  
はきつと男として  
当然なの  
だろう。

『女子学生は

真っ当な性対象である』  
ドン

みんな単に気づいて  
ないだけか  
認めたくないんだ。

少し前までの俺が  
そうだったよ  
うに。





ああ。  
もはや興味しかないよ。  
如何とも抗いがたい興味だ。

『快感に喘ぐ... って  
どんなん?』

胸を触ったら感じるのか?  
あそこを触ったら『あん』て  
言う?

汗をべつとりかいて  
イきそうになつて...  
ぎゅつと俺に抱きついてくる...

こんな... 学生が?  
想像もつかねえ... が?





だから、視たい。

死ぬほど願ったとしても  
この経験ができるのは  
ほんの一握りの人間だけだ。

偶然とは言え  
俺は今その極少数の側に居る。

これをそつ閉じするのは  
逆に人間失格だろ？

『徹底的にこの■学生を  
しゃぶり尽くそう』

芽生えた淫猥な欲求の前に

俺の心良識のタガは粉々に  
消え失せた。



愛莉ちゃん

はい？

この飴さ  
直接塗つたらもつと  
効くらしいんだよ

直接つて  
まんこにい？

まっ…  
…うん



塗りたいですか？  
じゃあもつと下品に  
なつちやいますよ？

…塗りた

下品って  
自覚してんのか…



それに塗っておくと  
初めてでも痛く  
なくなるらしいんだ

私、痛くても  
いいですけど…

何言ってるんだ…



気持ち良い方が  
良いに決まってるだろ

じゃあねえ

ムムム

ムムム



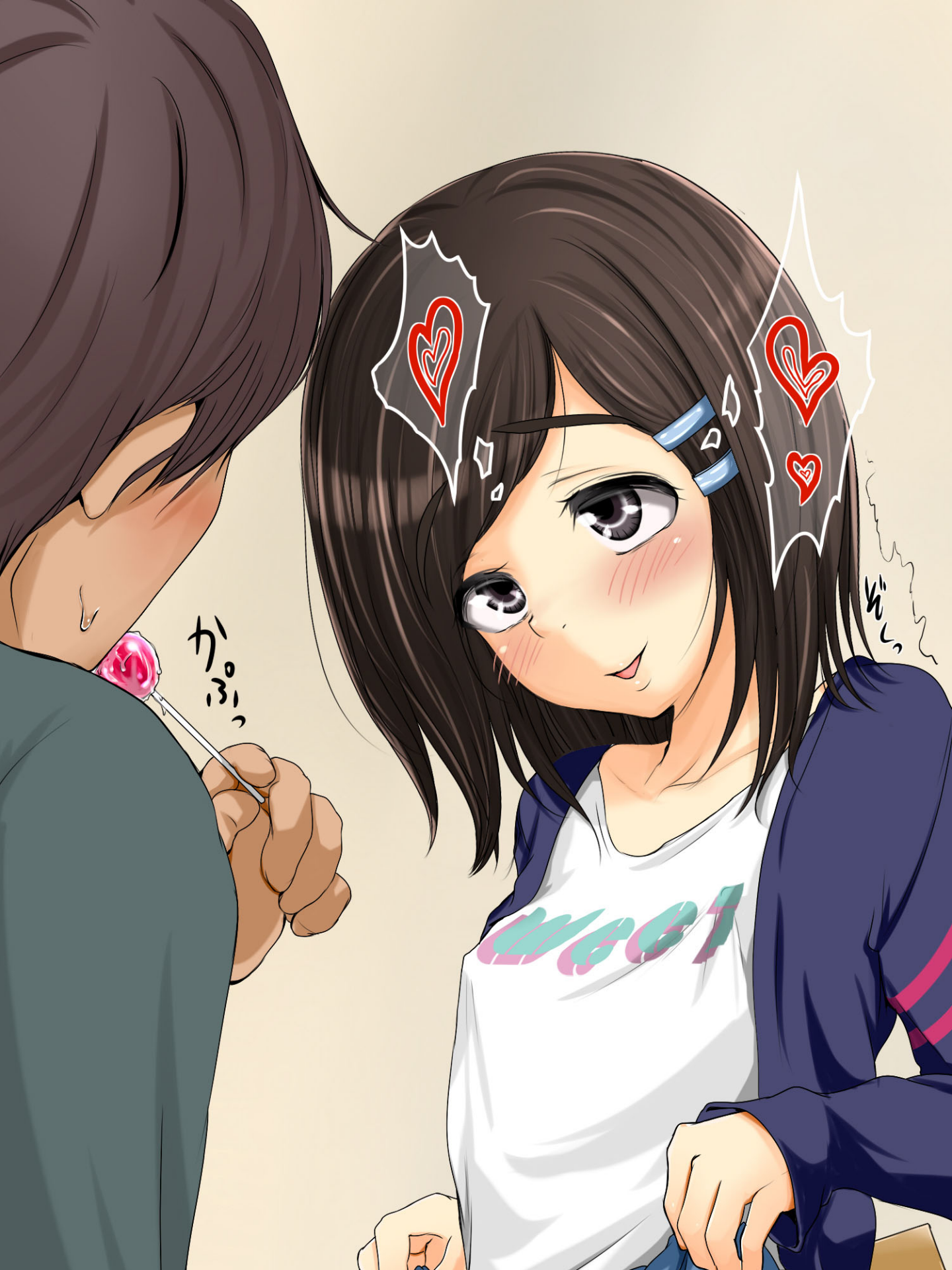
















お味は？

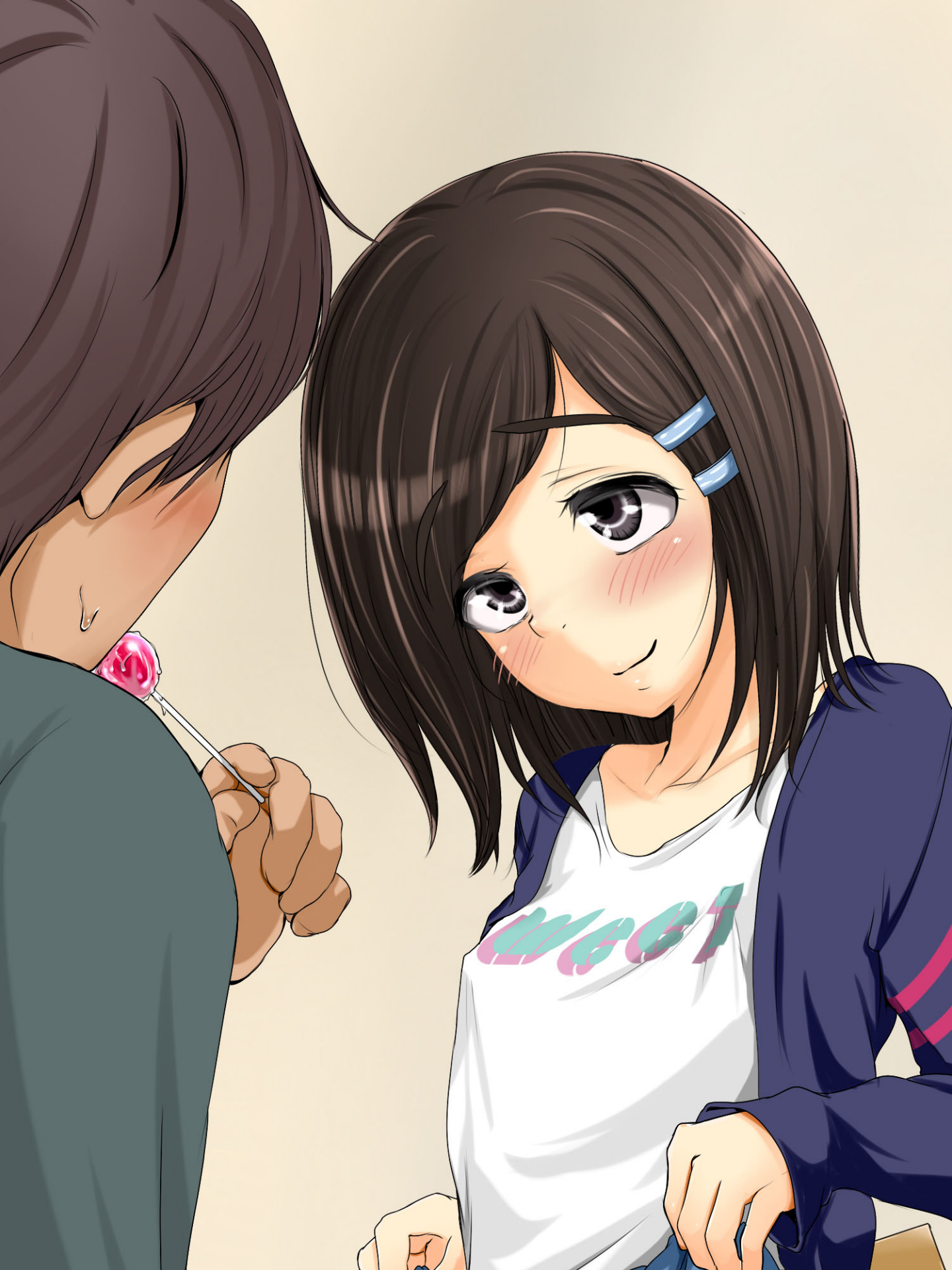
かな ■■■ 学生っぽい



おいしい？

いっせー  
イロっ

いっせー  
イロっ





ごめ...

...はっ

す、

















はえ？



えっ!?

んあっ

あ

びんびん











は…ぢま  
しゃん…

ど、  
どうした？



私… たうん…  
… イった…

なにっ!?

さ、触った  
だけだぞっ!?



や、やばそ？  
やめようか？

.....

ううん...  
らじじいぶ...



今、身体どんな  
感じなんだ？  
震えてっけど

いくいつぽてまえで  
ずっと…そのまま



たぶん塗り込んだら  
エライことになるぞ

シていいのか？





うん…シテ…

シテ

シテ

うわ…  
目がイっちゃってんぞ  
この子…



じや、じやあ  
いきます...

し...こ...

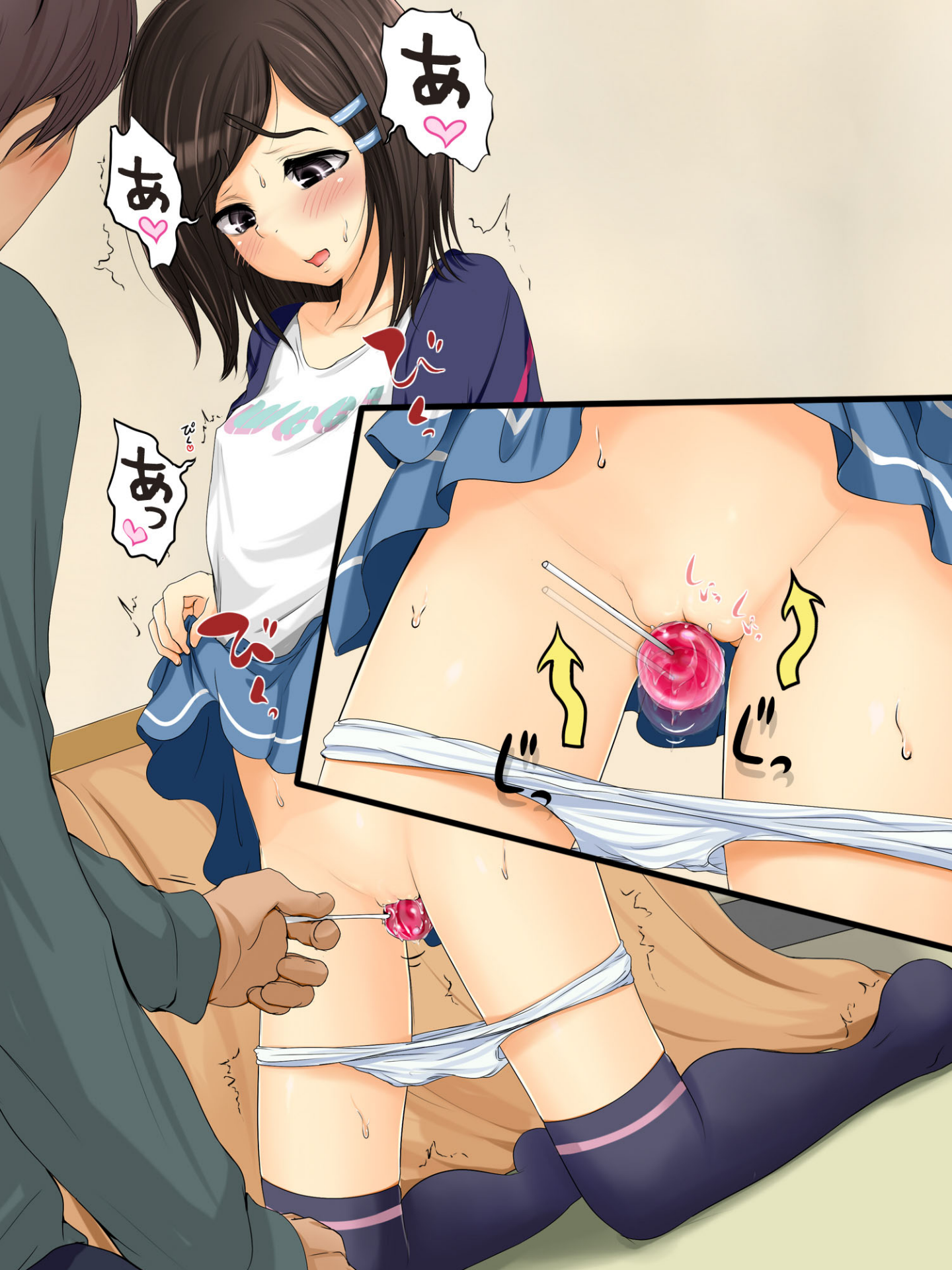


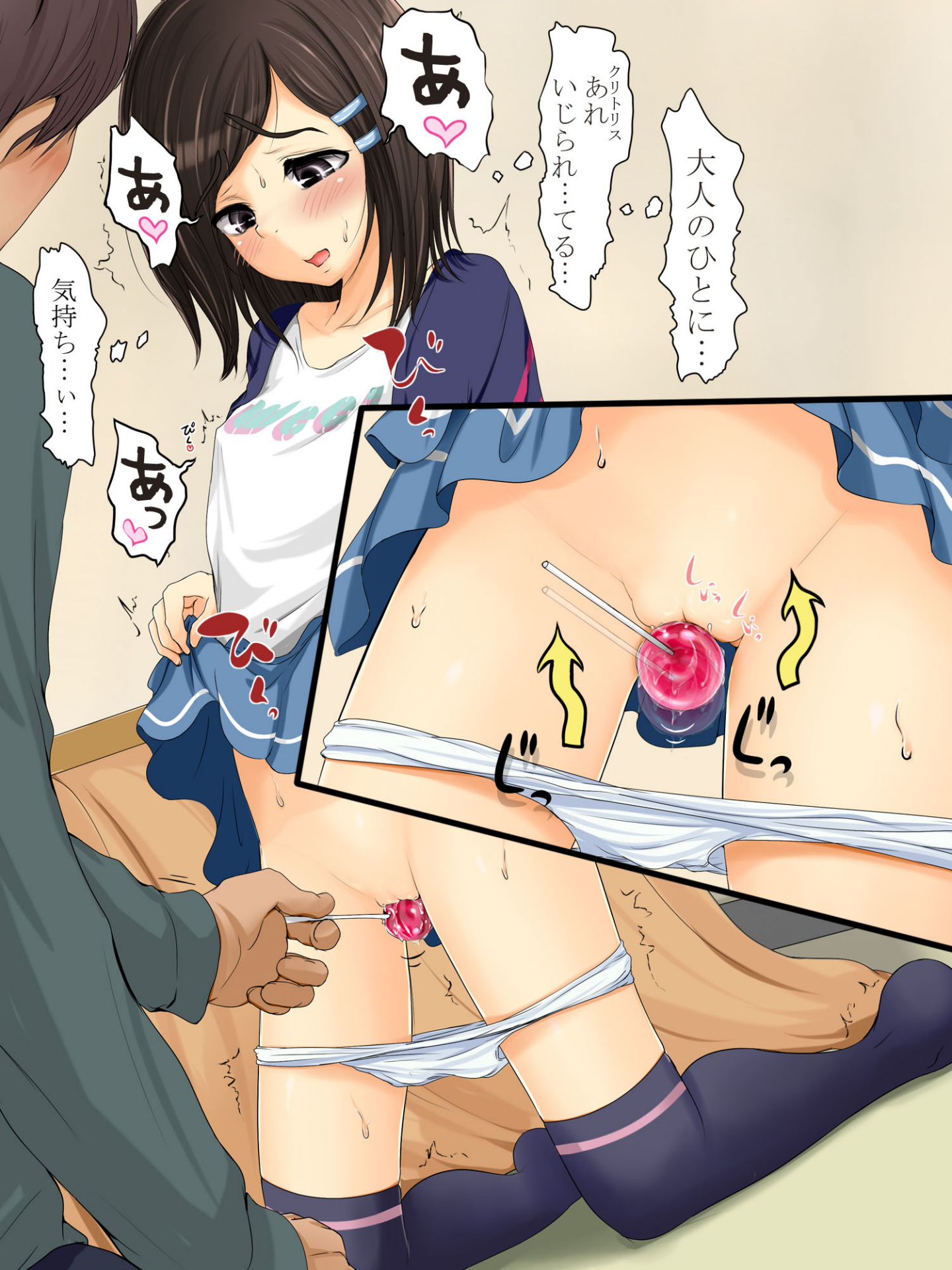
びん

もっ

じ







あ♡

あ♡

クリトリス  
あれ  
いじられ…てる…

大人のひとに…

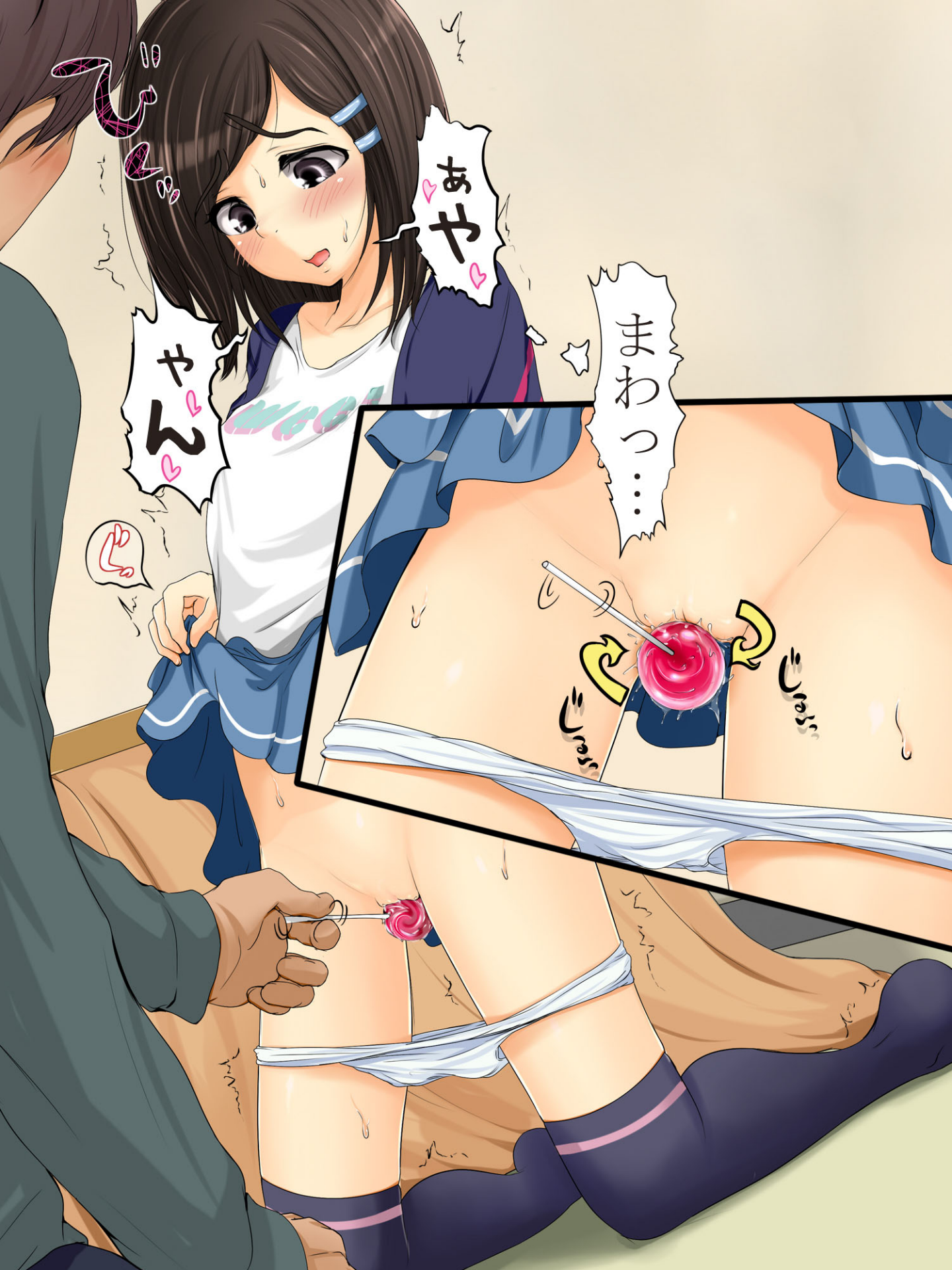
気持ち…い…

あ♡

じっ

じっ

しっ  
しっ



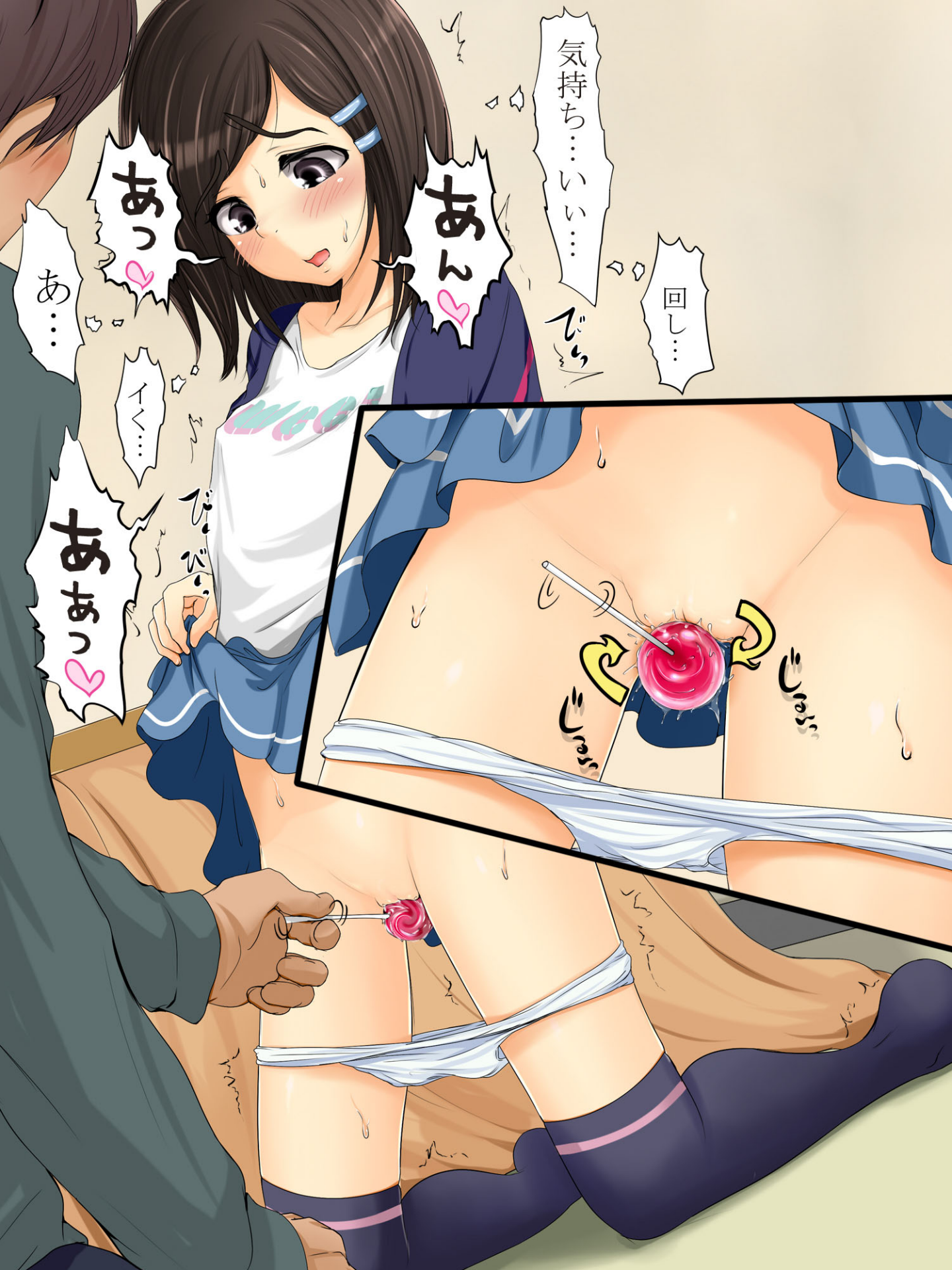
あめ

あめ

まわっ...

turn

turn



気持ち...いい...

回し...

あっ

あっ

あ...

イク...

あっ

回転

回転



びしょ

しゅわん

しゅわん

しゅわん

しゅわん



これ...だけで...

はっ

はあっ

いった♡

いつ...

びん

こんな...ので...

ぐるっ...

はあっ

はっ

はっ



!!?

え...

すぐ...ク...る...



また...

んっ

んっ!

あ...イク...

んっ!!

すご...気持ちいい...♡♡

しゅわん

びん







やすめ…ない…

イクっ…  
♡

イツ

あ…い

あ…イクっ…

んんんっ

いくっ…また…

あふふふ  
あふふふ

んんん

んんん



あ…  
いくつ…

頭の中…  
まっしろ…に…

きもち

いく

いくつ

いったっ

いったあ

ああ

いくつ

いって…あつ…  
つってんじやん





愛莉ちゃん？  
ほんとに大丈夫か？

はあっ

はっ

はあっ

……  
もしもし



.....

はあ

はあ

れす... らいじよぶ...

?

あの…  
何分ぐらい  
経ちました…？

いや  
十秒ちよつと…





.....

わたし：  
何十回も：  
イってました：

うそ……



この飴  
ヤバいれすね…

ああ…  
ヤベえ

試読版はここまでです。

試読して頂き  
誠にありがとうございました。  
ございました。

製品版の方も  
ぜひよろしく  
お願い致します。

Lewdly Lovely a  
るどリーらぶリーあ  
Lollipop  
ろりぽっぷ!

